

荒野の放浪（Ⅱ）



目次

1. 恵みの契約	5
2. 破られた契約	10
3. 回復された契約	15
4. 不忠実な祭司たち	20
5. シナイを出発して	26
6. カデシでの反逆	31
7. コラ、ダタン、アビラムの反逆	36
8. 荒野を放浪する	41
9. 打たれた岩	46
10. エドムを回避する旅	52
11. シホンとオグに対する勝利	57
12. ヨルダンでの背教	62
13. モーセの死	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A.)

安息日聖書教科 Vol.96, No.2

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : Good Salt on the
front cover; Map Resources
on pp. 4, 25, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

試練を、へりくだった心と教えを受ける精神をもってふりかえり、天のカナンにはいる準備に役立てるように望んでおられる。」(人類のあけぼの上巻 338)

わたしたちが「荒野の放浪」について二部シリーズの第二部を続けていくとき、シナイでの契約からモーセの死に至るまでに起きた主な事件について、民数記と申命記からの引用を用いながら、研究していきます。「申命記を、今日地上に生存している人々は注意深く研究すべきである」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 11 巻 1117)

「むかしのイスラエルの歴史は、再臨信徒の団体の過去の経験の、顕著な実例である。神は、イスラエルの人々をエジプトから導き出されたように、ご自分の民を再臨運動において導かれた。大失望のときに、彼らの信仰は、ヘブル人が紅海で試みられたような試練を受けた。もしも彼らが、過去の経験において彼らとともにあった導きの手に、なおも信頼していたならば、彼らは神の救いを見たことであろう。もしも、一八四四年の運動に一致して働いた者がみな、第三天使の使命を受け入れ、聖霊の力によってそれを宣布していたならば、主は彼らの努力とともに力強く働かれたことであろう。輝かしい光が、洪水のように世界を覆ったことであろう。何年も前に、地の住民に警告は発せられ、最後の働きが完結して、キリストはご自分の民を救うためにおいでになっていたであろう。

イスラエル人が荒野を四十年もさまようことは、神のみこころではなかった。神は、彼らをまっすぐにカナンの地に導いて、彼らをそこで、聖く幸福な国民として定住させようとしておられた。しかし、『彼らがいいることのできなかったのは、不信仰のゆえで』あった(ヘブル 3:19)。墮落と背信のために彼らは荒野で滅び、他の者たちが約束の国に入るために起こされた。同じように、キリストの再臨がこのように遅れ、神の民がこのように長く、罪と悲しみのこの世にとどまることは、神のみこころではなかった。しかし、不信が、彼らを神から引き離した。」(各時代の大争闘下巻 182)

神が助けて下さって、個人的な救い主としてイエスにすがりつき、不信というこの嘆かわしい罪を振り払うことができますように。過去においてわたしたちを導いて下さり、力をもって第三天使のメッセージを伝えさせるみ手に信頼することができますように。もしわたしたちが神に定められた働きをしないなら、他の人々がわたしたちに取って代わることでしょう。

世界総会安息日支部

第一献金

ヨハンプルグの礼拝堂と本部のために

ヨハンプルグは南アフリカの商業都市であり、アフリカとその他の世界の間の玄関口です。5,600 万人の南アフリカの人口のうち、1,000 万人がヨハンプルグに住んでいます。南アフリカはまだ宗教の自由を享受しており、これが国家憲法の中で正式に記されています。キリスト教は南アフリカで主要な宗教であり、大半はローマ・カトリックに属しています。続いて様々な数多くのカリスマ的キリスト教会があります。キリスト教会の他には、アフリカ土着の先祖崇拜が広く実践されており、これにイスラム教やユダヤ教が続きます。



改革運動のメッセージがヨハンプルグに伝えられたのは、ジンバブエからの二人の兄弟が南アフリカを訪問した 1944 年でした。その時以来、メッセージは南アフリカを通じて伝えられ、レソトやスワジランドなどの近隣へも伝えられました。ここでの働きはヨハンプルグにある本部と共に南アフリカフィールド総会の下で運営されています。

しかしながら、ヨハンプルグの不動産の費用が高いことから、これまでフィールドは不動産を所有することができず、36 平方メートルの賃貸オフィスから運営を行っています。さらに、ヨハンプルグにあるわたしたちの教会のほとんどは自分自身の礼拝所を持っておらず、他の教会の建物を借りたり、安息日の礼拝のために政府の学校を用いたりしています。

数年前に、神様の恵みにより、南アフリカにある教会員たちからの献金を通して資金を得て、家のついた 5 エーカーの土地を購入しました。その場所はヨハンプルグの中心からおよそ 10 キロメートル離れた郊外にあります。その家は古く、いくらか修繕が必要です。事業には、恒久的な本部、中心的な礼拝堂、そして数年後には、寮付きの学校の建設からなっています。この事業を実現するためには、数年にわたる相当の資金的な支出が必要となります。わたしたちのすべての資本は土地を購入するために使い果たしたため、世界中の兄弟姉妹がたに、この事業の実現のために援助してくださいませよう、お願い致します。

皆さんが惜しみなくこの事業に献金して下さるときに、神様が皆さんを豊かに祝福して下さいませよう。そしてわたしたちはみな心から、この南アフリカでの神様の働きを進める際に、皆さんの献金によってもたらされる助けに感謝いたします。

南アフリカフィールド総会の皆さんの兄弟姉妹より

恵みの契約

「わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。」（ヘブル 8:10）

『『新しい契約』は、『さらにまさった約束』によるもので、罪のゆるしの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。』（人類のあけぼの上巻 442）

参考文献： 人類のあけぼの上巻 430-444

日曜日

3月29日

1. 永遠の奥義

a. 神の恵みの契約はどれくらい長く存在してきましたか（ローマ 16:25）。

「恵みの契約は新しい真理ではない。なぜなら、それは永遠の昔から神のみ思いの中に存在していたからである。」（信仰によってわたしは生きる 77）

b. 恵みの契約が約束によって人類に確認されたのはいつでしたか（創世記 3:15）。いつそれは完全に設立されましたか（ヨハネ 19:30; ローマ 3:25）。

「恵みの王国は、人類の墮落後直ちに、罪を犯した人類の贖罪の計画がたてられた時に、設立された。それは、その時、神のみ心のうちに、そして神のお約束のもとに存在していた。そして、信仰によって、人々はその国民となることができた。しかしそれは、キリストが亡くなられるまでは、実際に築かれなかった。……救い主が、その生命をささげ、『すべてが終った』と叫んで息を引き取られた時、贖罪の計画の完成が確保された。エデンにおいて、罪を犯した二人に対してなされた救いの約束は、批准された。これまで神の約束によって存在していた恵みの王国が、この時、設立されたのである。」（各時代の犬争闘下巻 40, 41）

2. すべての国民を祝福する契約

- a. 神は恵みの契約の下で、どの祝福をアブラハムに約束なさいましたか（創世記 12:1-3）。どなたが約束された「子孫」ですか（ガラテヤ 3:16）。

「キリストはご自分の偉大な犠牲を払われるのにお一人ではなかった。それはこのお方とその御父の間で世の基が据えられる前に結ばれた契約の成就であった。手を結び合って、このお二人は、人類がサタンの詭弁によって打ち負かされたときにはキリストが人類のための保証人となられるという厳粛な誓いに入られたのであった。」（ユース・インストラクター 1900 年 6 月 14 日）

- b. 救いのためにキリストだけを信じるすべての人のために、この契約の下で、神は何をして下さいますか（ガラテヤ 3:8; ローマ 5:1）。

「シナイで律法が語られる 430 年前にアブラハムと結ばれた契約は、キリストにあって神によって確認された契約であった。すなわちまさにわたしたちに説かれていいるのと同じ福音そのものである。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891 年 8 月 24 日）

- c. アブラハムと結ばれた神の契約にはまたどの約束が含まれていますか。またそれを受けることによって、キリストを信じる信徒のために何がなされますか（ガラテヤ 3:14; エゼキエル 36:26, 27）。

「石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。彼は預言者によって、ご自分のことを言われた。『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』（詩篇 40:8）。そして、彼がこの地上におられたときには、『わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない』と言われた（ヨハネ 8:29）。」（人類のあけぼの上巻 442, 443）

3. 従順のための恵み

- a. なぜ神は誓いによってアブラハムにご自分のとこしえの契約を確認されたのですか(創世記 22:16-18; ヘブル 6:13-18)。

「この約束〔創世記 22:18〕は、キリストを指示したものであった。アブラハムは、このことを理解し(ガラテヤ 3:8, 16 参照)、キリストにたよって罪のゆるしを求めた。彼が義と認められたのはこの信仰であった。」(人類のあけぼの上巻 439, 440)

「神は、モリヤの山で、神の契約を繰り返し、厳粛な誓いのもとに、アブラハムと彼の各時代の子孫に祝福を与えることを確証された。」(人類のあけぼの上巻 158)

「アブラハムは人間であった。彼は、われわれと同じ情と愛情の人であった。しかし、彼は、イサクが殺されたならどのようにして約束が成就されるのかをたずねようとしなかった。彼は、自分の心の痛みを考えなかった。彼は、神のすべての要求が公正で義であることを知っていて文字通りにその命令に服従した。」(人類のあけぼの上巻 160)

- b. 恵みの契約の下にいる人々の生涯にはいつも神の律法への従順が見られることを何が示していますか(創世記 26:5)。

「アブラハムとの契約は、神の律法の権威をも維持した。主は、アブラハムに現われて、『わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ』と言われた(創世記 17:1)。この忠実なしもべについて、神は、『アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った』とあかしされた(創世記 26:5)。そして、主は、『わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう』と彼に宣言された(創世記 17:7)。」(同上 440)

使徒パウロは、新しい契約のもとにおける信仰と律法の間を明らかに述べている。『このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。』『すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。』『律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を』—人間は罪深い性質を持っているから、律法を守ることができない。だから律法は、人間を義とすることはできない—『神は……御子を、罪の肉の形で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。』(ローマ 5:1; 3:31; 8:3, 4)。(同上 443)

4. シナイでの契約

- a. シナイではなぜもう一つの契約が結ばれたのですか。その目的は何でしたか（申命記 4:35-37）。

「人々は、その奴隷時代に、神に関する知識と、アブラハムに与えられた契約の原則の大部分を忘れてしまっていた。神は、彼らをエジプトから救出し、神の力と恵みを彼らにあらわし、彼らが、神を愛し、信頼するようになることを望まれた。神は、彼らを紅海にお導きになった。そこでエジプト人の追跡によって、彼らは全く逃げ場を失ってしまった。それは彼らが自分たちには全く力がなく神の助けの必要なことを悟るためであった。このようにしてのちに、神は彼らを救い出されたのである。こうして、彼らは神に対する愛と感謝に満たされ、神が彼らを救う力を持っておられることを確信した。神は、地上の奴隷生活からの救済者として、ご自分を人々に結びつけられた。

しかし、さらに大きな真理を彼らの心に深く印象づけなければならなかった。彼らは、偶像礼拝と腐敗のなかで生活していたので、神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守ることができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 441）

- b. なぜアブラハムと結ばれた契約は、シナイでの契約より前に結ばれたにもかかわらず、「新しい」契約と呼ばれているのですか（ヘブル 9:16-20）。

「この契約はアダムと取りかわされ、また、アブラハムにくり返して与えられたとはいえ、キリストの死によって初めて批准されたのである。これは、初めて贖罪の知らせががすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである。人々は、これを信仰によって受け入れていた。しかし、それがキリストによって批准されたときに、それは新しい契約と呼ばれた。神の律法がこの契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であったに過ぎない。

もう一つの契約は、聖書で『古い』契約と呼ばれているが、それは、シナイで神とイスラエルの間に結ばれたもので、それは、そのとき犠牲の血によって批准された。アブラハムに与えられた契約は、キリストの血によって批准され、『第二の』または、『新しい』契約と呼ばれている。それは、この契約に印を押す血が、第一の契約の血のあとに流されたからである。」（同上 440）

5. 奴隷の精神からの救出

- a. シナイでの契約に入ったときに、彼らは何を理解しませんでしたか（出エジプト 24:7; ローマ 10:2, 3; ヨハネ 15:5）。

「人々は、…キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した（出エジプト 24:7）。」（人類のあけぼの上巻 441, 442）

- b. どのようにわたしたちは今日、シナイでイスラエルの子らが犯したのと同じ過ちを犯す危険性がありますか（ローマ 8:15）。

「奴隷の精神は律法的な宗教に従って生きようとすることによって、すなわち自身自身の力で律法の要求を満たそうと奮闘することを通して生み出される。わたしたちがアブラハムの契約、すなわちキリスト・イエスを信じる信仰による恵みの契約の下へ来るときにのみ希望がある。」（ユス・インストラクター 1892 年 9 月 22 日）

「どれほど魅力的で高価であっても、神の恩寵に値するものにしようと努力するすべての宗教的な礼拝、すべての肉体の苦行、罪の許しや神の恩寵を得るためのすべての自己処罰や骨折りの働き一何であってもキリストを自分の全きよりどころとするのを妨げるものは、神の御目に忌むべきものである。人類には、自分の反逆、神のみ旨への抵抗をやめて、自分自身を滅びるばかりの罪人と認め、神の憐れみに自らを投げ出すのでない限り、希望はない。わたしたちはキリストを通してのみ救われることができる。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891 年 8 月 24 日）

個人的な復習問題

1. 恵みの契約は、なぜ永遠の契約と呼ばれているのですか。
2. わたしはどのように今日、アブラハムと結ばれた契約によって祝福を受けるでしょうか。
3. 神は恵みの契約の下でわたしのために何をして下さると約束しておられますか。
4. なぜ恵みの契約は「新しい」契約と呼ばれているのですか。
5. わたしは今日どのように自分が恵みの契約の下にいることを確かめることができますか。

破られた契約

「主はモーセに言われた、『急いで下りなさい。あなたがエジプトの国から導きのぼったあなたの民は悪いことをした。』（出エジプト 32:7）

「彼らは指導者を見失って途方にくれ、以前の迷信にもどっていった。『寄り集まりびと』が、まず不平とつぶやきを言い始め、その後の背信の指導者になった。」（人類のあけぼの上巻 370）

参考文献： 人類のあけぼの上巻 369-375

日曜日

4月5日

1. 民が服従を約束する

- a. 律法の宣布の後、だれが山へ召されましたか。まただれだけが主のもとに近く来るように命じられましたか（出エジプト 24:1, 2）。
- b. モーセによって語られた主の言葉をみな聞いたとき、民は声を一つにしてなんと答えましたか。モーセはその時何をしましたか（出エジプト 24:3, 4）。

「人々の心は、奴隷生活と偶像礼拝によって盲目になり、墮落していたので、神の十の戒めの深遠な原則を十分に理解する備えができていなかった。人々が十戒の義務をもっと十分に理解し、励行するために、十戒の原則を例示し、適用するための、追加的な戒めが与えられた。これは、かぎらない知恵と公平によって作られ、つかさたちがこれに従ってさばきを行なったので、おきてと呼ばれた。これは十戒とちがって、モーセに個人的に授けられ、モーセはそれを人々に伝えた。」（同上 362）

「[出エジプト 24:3 引用]。モーセは、この誓いを、それに従うことを誓った主のみことばとともに、一つの書に記録した。」（同上 364）

2. イスラエルが神との契約に入る

- a. モーセが契約の書を取り上げて民の聞いているところで読んだとき、彼らは再び何を約束しました (出エジプト 24:7)。

「もしイスラエル人が神のご要求に従っていたならば、彼らは实际的にクリスチャンであった。彼らは幸福になっていたことであろう。なぜなら、彼らは神の方法を守り、自分自身の生来の心の傾向に従わないからである。モーセは彼らが主の言葉を誤解したり、神のご要求をあやまって適用したりするがままにはしておかなかった。彼は主の言葉をみな書物に記し、彼らが後で参照できるようにした。山で彼はキリストご自身が語られたとおりにそれらを記述した。

主の契約が民の聞こえるところで読まれるのを聞いた後、勇ましくイスラエル人は主に対する服従を約束して言葉を語った。彼らは、『われわれは主が言われたことを、みな行います』と言った。それから民は神につくものとして取り分けられて、印された。犠牲が主に対して捧げられた。犠牲の血の一部が祭壇に降り注がれた。これは民が自ら一体と思いと魂一を神に捧げたことを意味していた。一部は民に降り注がれた。これはキリストの降り注がれた血を通して、神が憐れみ深く彼らをご自分の特別な宝として受け入れて下さったことを意味していた。こうしてイスラエル人は神との厳粛な契約関係に入った。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1107)

- b. 神との契約関係に入る決断をする際に、イスラエル人は何を悟りませんでしたか (ローマ 7:18; ヨハネ 15:5)。

「神は、……彼らに律法を与え、服従することを条件にして、大きな祝福をお約束になった。『それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、……あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』(出エジプト 19:5, 6.)。人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した(出エジプト 24:7)。」(人類のあけぼの上巻 441, 442)

- c. シナイで結ばれた契約を批准するために、モーセによって何が用いられましたか (出エジプト 24:8)。

3. 山でのモーセ

- a. 何の目的のために、モーセは再び山へ召されましたか（出エジプト 24:12; 25:8, 9, 40）。

「モーセは、山にいた間に、神のご臨在が特別にあらわされる聖所の建築について指示を受けた。『彼らにわたしのために聖所を造らせなさい』（出エジプト 25:8）というのが神の命令であった。…

これから、人々は彼らの王であられるおかたに臨在していただくのであった。『わたしはイスラエルの人々のうちに住んで、彼らの神となるであろう。』幕屋で『わたしはイスラエルの人々に会うであろう』というのがモーセに与えられた保証であった（出エジプト 29:45, 43）。神の権威の象徴として、また神のみこころのあらわれとして、神ご自身の指で二枚の石の板に刻まれた十誡の写しがモーセに渡されたが、それは聖所に納められて、国民の礼拝の目に見える中心となるのであった（申命記 9:10; 出エジプト 32:15, 16 参照）。」（人類のあけぼの上巻 367）

- b. シナイ山に何が見えましたか（出エジプト 24:15-17）。

- c. どれくらいの間、モーセは神と共にいましたか（出エジプト 24:18）。主はイスラエルを通して、どのように世を明るくしたいと望んでおられましたか。今日、これはどのようにわたしたちに当てはまりますか。

「イスラエルは奴隷の境遇から、すべての民にまさって高められ、王の王であられるおかたの特別な宝とされた。神は、彼らに聖なる委託物をゆだねるために、彼らを世から引き離された。神は彼らを律法の保管者とし、彼らによって神ご自身の知識を人々の中に保とうと望まれた。こうして天の光は、暗黒につつまれている世を照らし、すべての民族に偶像礼拝から離れて、生きた神に仕えるようにと訴えられる声が聞かれなければならなかった。もし、イスラエル人が、彼らの委託に忠実であるなら、彼らはこの世で強力な国家となるのである。神は彼らを防衛し、彼らを他のどの国民よりも高められるのである。神の光と真理は、彼らを通してあらわされ、彼らは、あらゆる種類の偶像礼拝にまさって、神の礼拝のすぐれていることのよい例として異彩をはなつのであった。」（同上 368）

4. 金の子牛

- a. 民はモーセが山から戻るのに非常に長くかかるのを見て、アロンの周りに集まって何と言いましたか (出エジプト 32:1)。

「こうして彼らは待つ間に、すでに聞かされた律法をよく瞑想し、さらに神がこれからも与えようとしておられる啓示を受けるために、心の準備をする時間が与えられた。これは、そのための絶好の機会であった。こうして彼らが、神の要求をさらに明らかに理解しようとして、神の前にへりくだっていたならば、試練に会わないように守護されたことであろう。しかし、彼らは、そうしなかった。やがて彼らは注意なくなつて、無とんちゃくになり、律法を犯すに至った。特に寄り集まり人はそうであった。…中にはエジプトへ引き返そうとする者もあった。しかし、カナンに向かって進むにしても、エジプトに引き返すにしても、大多数の人々は、もはやモーセを待たないことにきめてしまった。」(人類のあけぼの上巻 369, 370)

- b. アロンはどのように自分の弱さを表しましたか。民はどうしましたか (出エジプト 32:2-6; 詩篇 106:19, 20)。

「偶像を造ることが、偶像礼拝であることを指摘した少数の勇敢な人々は、群衆の襲撃を受けて乱暴をされ、ついに混乱と興奮の中で生命を失った。

アロンは、自分の身の安全を気づかった。彼は、神の栄光のために勇敢に立つかわりに、群衆の要求を受け入れた。」(人類のあけぼの上巻 371)

- c. この経験には、わたしたちのためのどの警告が含まれていますか (コリント第一 10:7)。

「わたしたちは、自分たちの動機が誤解されるがゆえにいやな立場におかれることになったとしても、視力がはっきりと悪を識別し、それを明白に述べるべき時にやわらげることによって、アロンの罪を繰り返す。わたしたちは兄弟や自分たちとつながりのある魂の上にある悪を容認してはならない。真理のために堅く立つことをしないこの怠慢はアロンの罪である。彼が真理を明白に語っていたならば、金の子牛は決して造られなかったであろう。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] I 巻 1109)

5. モーセが民のために嘆願する

- a. 宿営のうちの背教に関して、主とモーセの間の話し合いを述べなさい（出エジプト 32:7-14）。

「モーセは、これまで神の導きのもとにイスラエル人のために多くのことを行ってきた。モーセは、彼らのために深い関心と愛をい দিয়ে嘆願しているうちに、臆する気持ちがなくなった。主は、彼の願いに耳を傾け、彼の無私の祈りをお聞きになった。彼は、そのしもべを試みられたのである。神は彼の忠実さと彼があやまちに陥り、恩を忘れた人々を愛するかどうかを試みられた。そして、モーセは、その試練に耐えたのである。モーセのイスラエルに対する関心は、利己的動機から出たものではなかった。神の選民が栄えることは、彼の個人的栄誉や大国民の父となる特権よりも、彼にとってたいせつなことであった。」（人類のあけぼの上巻 375）

- b. わたしたちが今日背教に直面するとき、神はわたしたちに何をして欲しいと望んでおられますか（テモテ第二 4:2）。

「神が罰をお与えになるすべての罪のうちで、他の人に悪を奨励することほど、神がきらわれるものはない。どんなにつらいことであっても、忠実に悪を責めて、神に忠誠を尽くすことを、神はそのしもべたちにお望みになる。神からの任命を受ける栄誉に浴したものは、弱い、人の言いなりになるひより見主義者であってはならない。彼らは、自己を高めたり、好ましくない義務を避けたりすることなく、ゆるぐことのない忠誠心をもって、神の働きをしなければならない。」（同上 379）

個人的な復習問題

1. 十誡に関連してイスラエル人に、どの追加的な規則が与えられましたか。
2. わたしはどのように「实际的なクリスチャン」になることができますか。このことがわたしを不幸にするでしょうか。
3. この世に神の知識を保存するために、わたしはどのように助けとなれるでしょうか。
4. わたしたちはなぜ時々正しいことのために絶つことに失敗しますか。これにはどのような反動があるかもしれませんか。
5. 明らかに不従順である人々や自分の信仰において矛盾している人々に対するモーセの態度から、わたしたちは何を学ぶことができますか。

回復された契約

「また主はモーセに言われた、『これらの言葉を書きしるしなさい。わたしはこれらの言葉に基いて、あなたおよびイスラエルと契約を結んだからである。』」（出エジプト 34:27）

「〔モーセ〕は、神の命令に従って、二つの石の板を用意して、それを山の頂に持って行った。主は再び、『契約の言葉、十誡を板の上に書いた』（出エジプト 34:28）。」（人類のあけぼの上巻 387）

参考文献： 人類のあけぼの上巻 375-388

日曜日

4月12日

1. モーセが石の板を砕く
 - a. モーセが山から戻ってきたとき、何を持ってきましたか。またどのようにヨシュアやモーセは各々彼らが宿営のうちに聞いた音を解釈しましたか（出エジプト 32:17, 18）。
 - b. 宿営における偶像礼拝に対するモーセの反応とアロンの無益な自己義認の試みを述べなさい（出エジプト 32:19-24）。

「宿営に帰ったモーセが、反逆をきびしく譴責し、激怒して、聖なる律法の板を砕いたことと、彼の兄弟の快い話しぶりと威厳ある態度とは全く対照的で、人々はアロンに同情を示した。アロンは、自分が人々の要求に屈した弱さを、人々のせいにして自己を弁護しようとした。それでも人々は、彼の柔和と忍耐に対して尊敬の念をいだいていた。ところが、神は、人とは別の見方をなさる。アロンの譲歩の精神と人の歓心を得ようとする気持ちは彼の目をくらまし、自分がどんなにいまわしい罪を許しているのかを見えなくした。彼がイスラエルに罪を犯させたために、幾千人の命が失われた。」（人類のあけぼの上巻 379）

2. 違反者に対する裁き

a. 神の御目にアロンの態度は、どれほど罪深いものでしたか (申命記 9:20)。

「もし、アロンが、どんなことになろうとも正しいことのために立つ勇気を持っていたならば、彼は背信を防ぐことができたことであろう。」(人類のあけぼの上巻 378)

b. モーセは自分の兄弟を譴責したあと、どの訴えをしましたか。またその結果は何か (出エジプト 32:26-29)。

「神が偶像礼拝をおきらいになることを周囲の国々に証明するために、この罪を罰する必要があった。モーセは神の器として、罪を犯した者に罰を与えることにより、彼らの罪に対して公の抗議を厳粛に行なったことを記録に残さなければならなかった。その後、イスラエルの人々が、近隣の部族間の偶像礼拝を非難するようになれば彼らは、主を神とする人々がホレブで子牛を造って礼拝したのではないかと反論してくることであろう。イスラエルは、そのとき、その恥ずかしい事実は認めないわけにはいなくても、そのときの罪人たちの恐ろしい運命を示し、その罪が承認または黙認されたものでなかった証拠とすることができるのであった。

正義だけでなく、愛もまた、この罪が罰せられることを要求した。神は、神の民の主権者であると同時に、保護者でもあられる。神は、他の者を滅ぼさないようにするために、反抗をやめない者たちを滅ぼされた。」(同上 381)

c. 自分の罪を悲しんでいる人々に対して、モーセは何を伝えましたか。またその後、どのように彼は彼らのために神と通信しましたか (出エジプト 32:30-35)。

「モーセは、罪人の運命がどんなに恐ろしいものであるかを知っていた。しかし、モーセは、もしイスラエルの人々が主に拒否されるならば、彼らと共に自分の名も消されることを願ったのである。彼は、それほどまでに恵みに満ちた救いにあずかった人人の上に、神の刑罰がくだるのを見るにしのびなかったのである。イスラエル人のためのモーセのとりなしは、罪人のためのキリストのとりなしを代表している。しかし主は、キリストが負われたような罪人の罪をモーセが負うことはお許しにならなかった。主は言われた。『すべてわたしに罪を犯した者は、これをわたしのふみから消し去るであろう』(出エジプト 32: 33)。」(人類のあけぼの上巻 383)

3. 神は悔い改めた者をお受け入れになる

- a. 民は自分たちの罪のために、主が自分たちをカナンまでお導きにならないことを聞いて、どのように反応しましたか (出エジプト 33:1-6)。
- b. この恐ろしい経験の後、モーセはどこに幕屋を張りましたか。どのしるしが主を求める人々のための希望を明らかにしていますか (出エジプト 33:7-10)。

「天幕は、宿営の外に張られたけれども、モーセは、それを『会見の幕屋』と名づけた。真に悔い改め、主に帰ることを願うものは、すべてそこへ行行って彼らの罪を告白し、神のあわれみを求めるようにという指示が与えられた。彼らが天幕に帰ったときに、モーセは、幕屋にはいった。人々は、モーセが自分たちのために行なうとりなが受け入れられたしるしを、必死になって見守っていた。もし、神が降りて来られてモーセに会われるならば、彼らは全滅のうきめに会わずにすむという希望がもてたのである。雲の柱が下ってきて、幕屋の入口に立ったときに、人々は喜びの声をあげて泣き、『立っておのおの自分の天幕の入口で礼拝した』(出エジプト 33: 10)。」(人類のあけぼの上巻 384)

- c. モーセは主からどの保証を得ましたか (出エジプト 33:11-17)。わたしたちはどのようにして同じ保証を得ることができますか。

「神の臨在に関する他のすべての約束にまさって、この経験が前途に横たわる働きに対する成功の確証をモーセに与えた。そして、モーセはエジプトで学んだすべてのこと、また、為政者や、軍の指揮官としての彼のすべての能力よりも、この経験をはるかに大きく評価した。この世のどんな能力や技術や学識であっても、神の臨在の代わりとはならない。」(人類のあけぼの上巻 386)

「神の御許へ行き、モーセのように、『もしあなたのご臨在がわたしと共になければ、わたしはこの民を導くことができません』と言いなさい。そしてさらに多くを求めなさい。モーセと共に、『あなたの栄光を見せて下さい』と祈りなさい。この栄光とは何であろうか。それは神のご品性である。これがモーセに宣言されたものである。魂は生きた信仰のうちに神をしっかりつかみなさい。舌をもってこのお方の讚美を語りなさい。あなた方が共に集まるとき、敬神のうちに永遠の現実について熟考する方向に思いを向けなさい。こうしてあなたは霊的な思いになるように互いに助けるのである。あなたの意志が神聖なご意志と調和しているとき、あなたは互いに調和するようになる。あなたは自分のかたわらに勧告者としてキリストを得るようになる。」(牧師への証 499)

4. 神のご品性をかいま見る

- a. モーセはさらにどのような要求をしましたか。そして主の答えは何でしたか（出エジプト 33:18, 19）。主はご自分の御名をどのようにモーセに宣べられましたか（出エジプト 34:5-7）。

「神の品性について一段と明りょうな啓示を求めて、ますます高く進むことはわたしたちの特権である。モーセは『どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください』と祈ったとき、神は彼を譴責なさらず、その祈りをきき入れ、『わたしはわたしのものもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう』とそのしもべに言われた（出エジプト記 33:18, 19）。

頭脳を鈍らせ、理解力を弱めるのは罪であって、罪がわたしたちの心から一掃されるとき、イエス・キリストの顔にある神の栄光を知る知識の光は、神の言葉を照し、自然界から反射を受け『あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神』をいよいよ完全に示すのである（出エジプト 34:6）。」（ミストリ・オブ・ヒーリング 448）

- b. 神がご自分の栄光をモーセに表された後、モーセは何を求めて祈りましたか。また神はどのようにお答えになりましたか（出エジプト 34:8-17, 27）。

「モーセはふさわしい信仰を持っていたので、神に完全に信頼していた。彼は助けを必要としていた。そしてそれを求めて祈り、それを信仰によってつかみ、自分の経験のうちに神が自分を保護して下さるという信念を織り込んだ。彼は神が具体的に自分の生涯を統治して下さるものと信じた。彼は自分の生活の一つ一つの詳細において神を見て認め、自分がすべてをご覧になるお方、すなわち動機を測り、心を試されるお方の目の下にあることを感じた。彼は神を仰ぎ、あらゆる形態の誘惑の中を墮落せずに自分を通過させる力を求めてこのお方に信頼した。…神のご臨在は人が置かれえる最も厳しい状況を通じて彼を支えるのに十分であった。

モーセは単に神について考えたのではなかった。彼はこのお方を見たのである。神は絶えず彼の前に見えていた。彼は決してこのお方のみ顔を見失ったことがなかった。彼はイエスを自分の救い主として見た。そして彼は救い主の功績が自分に着せられるものと信じた。この信仰はモーセにとって推測ではなかった。それは現実であった。これがわたしたちの必要としている種類の信仰である。すなわちテストに耐える信仰である。」（教会への証 5 巻 651, 652）

5. 恵みの契約に入る

- a. 今やイスラエルの子らは、自分たちが神と最初に結んだ契約とは対照的なアブラハムの契約の下で差し出されている祝福について、何を感謝することができましたか（詩篇 103:8; ヘブル 7:19; エレミヤ 31:33, 34）。

「〔イスラエルの子ら〕は、恐るべき威光のうちに律法が宣言されるのを見、山の前で恐れおののいた。しかし、それにもかかわらず、その後わずか数週間しかたたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、契約を破ってしまったために、神の恵みを受けることは望めなくなった。そして、今、自分たちの罪深さと、ゆるしの必要を認めた彼らは、アブラハムの契約にあらわされ、そして、犠牲のささげものによって示された救い主の必要を感じるようになった。彼らは今、信仰と愛によって、罪の奴隷からの救い主としての神に結びつけられた。こうしてこそ、彼らは新しい契約の祝福を感謝する用意ができたのである。」（人類のあけぼの上巻 442）

- b. モーセは 40 日後に山から何を持ってきましたか。民は彼を見たとき、どのように感じましたか（出エジプト 34:28-30, 33）。

「モーセの顔に反映した栄光は、キリストの仲保によって、神の律法を守る人々に与えられる祝福を示していた。それは、われわれの神との交わりが密接であればあるほど、神のご要求に対するわれわれの知識も明らかになり、いよいよ神のかたちに近づき、神の性質にあずかることも、ますます容易になる。」（同上 388）

個人的な復習問題

1. なぜわたしたちはしばしば罪を譴責する人をさげすみ、やさしく譲歩する人々を敬愛するのですか。
2. なぜ金の子牛を礼拝する罪はそれほど重かったのですか。
3. モーセにとって、政治家や軍の指導者としての自分の技能より、もっと価値のあったものは何でしたか。それはなぜですか。
4. イエスが心を罪から清めてくださるとき、何がお方のみ言葉から輝き、自然の中に反射しているのを見ますか。
5. わたしがもっと十分に神のみかたちに同化するよう導く二つの事柄は何ですか。どのようにですか。

不忠実な祭司たち

「彼らはわが民に、聖と俗との区別を教え、汚れたものと、清いものとの区別を示さなければならない。」(エゼキエル 44:23)

「わたしたちは何であっても良心を鈍らせ、誘惑を助長するような習慣をやめなければならない。わたしたちはサタンが神のみかたちにかたどられた一人の人間の思いに近づくことができるような戸を開いてはならない。」(教会への証 5 巻 360)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 424-429

日曜日

4月19日

1. アロンとその子らの献納

- a. 聖所の奉仕のためにアロンとその子らを献納した儀式を短く宣べなさい (レビ記 8:1-9, 12, 13, 24, 30, 33)。

「すべてが神の命じられた通りに行なわれてきた。そして、神は、犠牲を受け入れ、ご自分の栄光を著しくあらわされた。火が主のもとから下って、祭壇の上のささげ物を焼き尽くした。民は、畏怖と強い関心とをもって、この神の力の驚くべきあらわれを見つめた。彼らは、そこに神の栄光と恵みのしるしを見、いっせいに賛美と崇敬の叫びをあげ、主のみ前にあるかのように顔を伏せた。」(人類のあけぼの上巻 424)

- b. 主の御前に仕えるように召された人々には何が要求されましたか (出エジプト 19:22)。聖なる責任にふさわしくないものとするものは何ですか。

「もし人が神との生きたつながりを持っていなければ、彼自身の精神や言葉が優勢になる。これは聖なるものの代わりに捧げられる異火としてよく表されている。」(牧師への証 371)

2. ナダブとアビフが殺される

- a. ナダブとアビフの側のどの行為が、自分たちに与えられた聖なる職務にふさわしくないことを明らかにしましたか（レビ記 10:1）。わたしたちの時代に、自称クリスチャンは、どのように「異火」を用いますか。

「聖なる事柄を扱いながら、神に最もよく知られている何らかの原因によって、神ご自身が灯された聖なる火と彼らが捧げた異火の間を識別することができない人々の上に、神の改心させる力がもたらされなければならない。その異火は、ナダブとアビフによって捧げられたものと同様に神に対する侮辱である。神の愛という聖なる火は、危険のうちにある人々に対して、人をやさしく親切で同情深いものとする。鋭く威圧的な言葉をほしいままにする人々は、実際に次のように言っているのである。わたしはあなたよりもきよい。あなたはわたしの高められた地位を見ないか。」（牧師への証 356）

「改心した人が必要とされている。神を愛し、尊び、自分自身の知恵のうちに動くことを恐れる人、そして自分たちの努力が、神によって認められるときにのみ成功することができることを自覚している人が必要である。このお方の祝福がなければ繁栄はないのである。一瞬一瞬、神聖な力が人間の努力と結びつけられなければならない。さもないと聖なる火の代わりに異火が捧げられるようになる。…」

聖なる事柄を、わたしたちが俗なる事柄であるかのように扱うことは、神にとって侮辱である。なぜなら、この世に光を与えるにあたり神がご自分の奉仕をなすために取りわけておかれたものは、聖なるものだからである。神の働きに何らかの関わりがある人々は、自分自身の知恵の虚しさのうちに歩むべきではない。そうではなく、神の知恵のうちに歩むべきである。さもなければ聖なるものと俗なるものを同水準におく危険性がある。こうして彼らは神から自らを引き離すのである。」（ビュー・アンド・ヘアルド 1896 年 9 月 8 日）

- b. 彼らの冒瀆的なふるまいは、どのように罰せられましたか（レビ記 10:2）。

「礼拝のとき、民の祈祷と賛美が神のもとにのぼっていく間に、アロンのふたりのむすこが、それぞれ香炉をとり、主の前にうるわしいかおりとして立ちのぼる薫香をそれにたいた。だが、彼らは、主の命令にそむいて『異火』を使った。薫香をたくにあたって、彼らは神ご自身がともし、このために使うように命じられた神聖な火を用いずに、普通の火を用いてしまった。この罪のために、火が主の前から出て、民のしている前で彼らを焼き滅ぼした。」（人類のあけぼの上巻 424, 425）

3. 誤った訓練の結果

- a. モーセは問題の原因をみとめるとすぐに、アロンに何と言いましたか（レビ記 10:3）。ナダブとアビフの罪は、なぜ神の御目になお一層嘆かわしいものとしたのですか。

「ナダブとアビウは、モーセとアロンに次いで、イスラエルのうちで高い地位にあった。彼らは、特に主からの栄誉を受け、七十人の長老たちと共に、山で主の栄光を見ることを許された者たちであった。しかし、それだからといって、彼らの罪の言い訳がなりたったり、それが軽く見すごされたりしてはならなかった。むしろ、このために彼らの罪はいつそう重くなった。」（人類のあけぼの上巻 425）

- b. アロンは自分の息子たちを訓練する際に、どの諸原則を知っておくべきでしたか（箴言 22:6; 29:21）。彼はどの分野で失敗しましたか。

「ナダブとアビウは、少年時代に自製の訓練を受けなかった。父親が相手の言いなりになる性質で、正しいことに対する確固たる態度が欠けていたために、彼は子供のしつけをないがしろにした。むすこたちは好きなことをするにまかせてあった。彼らはかつてにふるまう習慣が長く続いたために、最も神聖な職務の責任を負わせられても、その習慣からぬけきれなかった。彼らは、父親の権威を尊ぶことを教えられていなかった。そして、彼らは神の要求に厳格に従う必要を認めなかった。」（同上 425, 426）

「幼少時における子供の教育はどのように重要視してもしすぎるということはない。乳児期や小児期に学んだ教訓や形成した習慣は、その後施されるいかなる教育訓練よりも品性の形成とその生涯を支配するのに関係がある。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 350）

- c. モーセはアロンと生きている彼の息子たちに、どの指示と警告を与えましたか。それはなぜですか（レビ記 10:6, 7）。

「〔アロン〕は悲嘆をあらわして、罪に共感するそぶりを見せてはならなかった。会衆を神に対してつぶやかせてはならなかった。」（人類のあけぼの上巻 427）

4. 今日わたしたちに対する警告

- a. 主はアルコール飲料の使用に対して、どのような警告を与えておられますか（レビ記 10:8-11）。この警告は今日わたしたちにまで及んでいますか（出エジプト 19:5, 6）。

「飲酒はからだを弱め、思想を混乱させ、道義を低下させる作用を持つ。それは、人に聖なるものの神聖さと、神の要求の拘束力を認めさせない。清い責任ある地位についた者はみな、きびしく節制を守って頭脳を明せきにして善悪を区別し、原則に堅く立ち、公正を行ない、あわれみの心を持つ知恵がなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 428）

- b. どの聖書の諸原則が、イエスによって婚宴のときに提供されたぶどう酒が発酵していないぶどう汁であったことを示していますか（箴言 20:1; 23:32）。

「キリストは発酵したぶどう酒を適度に用いることを好まれたと宣言し、その証拠としてキリストが水をおぶどう酒に変えた奇跡に言及する人々がいる。しかし、わたしたちは、キリストは決して有毒なぶどう酒をお作りになったのではないと抗議する。そのような行為があれば、このお方のご生涯のあらゆる教えと模範に反するものとなったことであろう。」（健康改革者 1878 年 7 月 1 日）

- c. クリスマス生活において勝利を得ようと奮闘している人々は何をしますか（コリント第一 9:25）。

「真の節制はわたしたちに有害なものはすべて完全に排除し、健康的なものを思慮深く用いることを教える。」（節制 138）

「唯一の安全な道は、茶、コーヒー、ぶどう酒、たばこ、アヘン、そしてアルコール飲料に手を触れず、味わわず、扱わないことである。…

決してアルコール飲料のカップにあずからないようにしましょう。それに決して触れないようにしましょう。」（同上 163）

「青少年たちは、たばこや酒やその他の刺激物が、身体を破壊し、頭脳を曇らせ魂を官能的にする影響を与えることを悟らなければならない。こうしたものを用いる人は肉体的知的道徳的な能力をいつまでも充実した状態で持ち続けることができないということを、明らかにしなければならない。」（教育 240）

5. 「そのみ名は聖にして、おそれおおい」

- a. なぜナダブとアビフの罪が記録されているのですか（ローマ 15:4）。わたしたちはこの事件から何を学ぶことができますか。

「神は、民らが崇敬と畏怖をもって神に近づき、しかも神の定められた方法に従わなければならないことを教えようとなさった。神は、なまはんかな従順をお受けになることができない。厳粛な礼拝のときにあたって、ほとんどすべてのことが神の指示どおりに行なわれるというだけでは不十分であった。戒めから離れ、世俗のものと神聖なものとはを区別しない者に、神はのろいを宣告しておられる。」（人類のあけぼの上巻 426）

- b. 主は聖なる責任の地位を占めるために、どのような種類の人々を召しておられますか（ペテロ第一 1:15, 16; 2:9）。

「キリストの牧師は、その言葉と行為が清くなければならない。彼は、自分が靈感の言葉、聖なる神の言葉を扱っていることを、常に覚えていなければならない。彼はまた、自分には群れが委ねられていて、イエスが父の前でわれわれのためにとりなされるように、自分は彼らのことをイエスに訴えてとりなさなければならないということを、覚えていなければならない。わたしは、昔のイスラエルの民のことを示された。そして、聖所の働きをする者が、どんなに清く聖でなければならないかを見た。なぜなら、彼らは、その働きによって、神と密接に交わるからである。奉仕する者は、聖で純潔で、きずのない者でなければならない。そうでないと神は、彼らを滅ぼしてしまわれる。神は、変わっておられない。」（初代文集 198, 199）

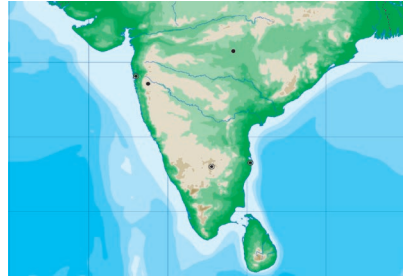
個人的な復習問題

1. なぜわたしたちは時々自分自身の意見や利己的な考えを神のみ働きに持ち込むのですか。
2. 聖なる事柄と俗なる事柄を同じ水準におくことを避けるために、何が必要とされていますか。
3. いつ自制を学ぶべきですか。なぜですか。
4. なぜ神は今日わたしに厳密に節制するものとなることを望んでおられるのですか。
5. なぜ敬神がそれほど重要なのですか。これはどこで始まりますか。どのようにですか。

第一安息日献金

インドのタミル・ナドゥ、メイラドゥライの礼拝堂のために

メイラドゥライは、インドの最南端にあるタミル・ナドゥのナガパチナン地方にある主要な町です。それはメイラドゥライ・タルク（行政区域）の本部です。メイラドゥライはチェンナイとティルチラッパリ（トゥリチーとしても有名）を結ぶ主要路線に沿った主な分岐点となっています。メイラドゥライはチェンナイから 281 キロメートル、またティルチラッパリから 130 キロメートルのところに位置し、



11.27 平方キロメートルの地域内にあります。ベイ・オブ・ベンガル海岸からわずか 24 キロメートルの距離に位置し、海拔わずか 10 メートルの町です。そこをカヴェリ川が走り、ウッタラ・メイウラムと正式なメイウラムに分けています。この熱帯地方で広く農業が行われており、およそ労働人口の 15%は商取引、25%がその他の商業活動に携わっています。

2011 年の人口調査によれば、メイラドゥライはおよそ人口 100 万人です。ヒンズー教がメイラドゥライの主要な宗教で、タミルが広く使われている言語です。2011 年当時の宗教的な国勢調査によれば、メイラドゥライには 88.69%のヒンズー教徒、6.38%のイスラム教徒、4.19%のキリスト教徒、0.04%のシーク教徒、0.03%の仏教徒、0.32%のジャイナ教徒、そして 0.35%の他の宗教が続きます。

黙示録 14 章の第一天使のメッセージは、「地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえて」います（黙示録 14:6）。主の働きを進め、ほとんど異教であるこの地域に光として輝くために、ここの兄弟たちはすでに自分自身の資金で一角の土地を購入しました。この命のメッセージを伝えるために前進する働きを進めています。闇の中にいて苦しむ魂に奉仕する神の助けのみ手として役割を果たすために医事伝道の働きと共に福音を伝えています。

この事業を完成するために緊急に必要とされている資金を考慮し、イエス・キリストの愛のうちに、つつしんでわたしたちが礼拝と病人の癒しのためにこの教会の家を建設できるように助けをお願いします。わたしたちの兄弟姉妹の皆さんにこの事業のための惜しみない献金をお願いします。主が皆さんお一人お一人と皆さんの親切な支援を祝福して下さいように！皆さんの献金にさきだってお礼申し上げます。皆さんのメイラドゥライの兄弟姉妹より

シナイを出発して

「これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。」(コリント第一 10:11)

「イスラエル人がつぶやきをくりかえし、罪のため神の怒りに見舞われたことは、その後この地上に存在する神の民のために聖なる歴史に記録されているが、しかしこれは神に世の終わりに生存するわれわれに対する警告となっている。」(生き残る人々 177)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 445-462

日曜日

4月26日

1. 荒野を通じて旅をする

- a. なぜモーセはホバブにイスラエルの民と共に来るよう招いたのですか。彼はその招きを受け入れましたか (民数記 10:29-31; 士師記 1:16; 4:11)。

「モーセの義理の兄弟ホバブは、この種族〔ケニ人〕の出身で、荒野のことをよく知っていたので、イスラエル人の荒野の旅に同行してよい助言を与えた。」(人類のあけぼの下巻 298)

- b. モーセは雲が上って、契約の箱が前を進むとき、また再びとどまるとき、どの祈りを捧げましたか (民数記 10:35, 36)。

「神ご自身が、イスラエル人のすべての旅行の指示をお与えになった。彼らの宿営の場所は、雲の柱がおりてくることによって指示された。そして、彼らがそこにとどまっていなければならない間、雲は聖所の上にとどまっていた。彼らが旅を続けるときには、雲が幕屋のはるか上にあがって行った。止まるときも進むときもともに、厳粛な祈りがささげられた。」(人類のあけぼの上巻 448)

2. 再び、つぶやく

- a. どのような種類の土地を通じて、イスラエルの民はシナイを出発した後に旅をしましたか。それはなぜですか (申命記 8:15, 16; エレミヤ 2:6)。

「前進するに従って、道はますます困難になってきた。彼らの進む道は、石の多い峡谷と不毛の荒地であった。彼らの回り一面は、広大なさばくであった。『荒野なる、穴の多い荒れた地、かわいた濃い暗黒の地、人の通らない、人の住まない地』であった (エレミヤ 2:6)。岩にかこまれた谷間から谷間を、男や女や子供たちが、動物に車を引かせ、牛、羊などの長い行列を従えて通っていった。その進みぐあいは、どうしても遅々としてはかどらなかった。長い間宿営したあとの群衆は、道中の危険や苦難に耐える準備がなかった。」(人類のあけぼの上巻 449)

- b. 道中の不便さについてつぶやき始めたとき、何が起こりましたか (民数記 11:1-3)。

「三日の旅が過ぎると、つぶやきの声が公然とあがるようになった。つぶやきは、まず入り混じった群衆から起こった。彼らの多くは、完全にイスラエルに合同していないで、何か非難する材料はないものかと目を見張っていた。進行の方向が彼らの気に入らなかった。モーセも彼らも共に、雲の指導に従っているのは十分承知しながら、彼らは絶えずモーセの指導に何かと不平を言った。不満は伝染性を持っている。そして、それは間もなく宿営全体に広がっていった。」(同上 449)

「彼ら〔イスラエルの民〕は大きな光を受けていた。彼らは、神の威光と力とあわれみの証人となったからであった。そのため、彼らの不信と不満は大きな罪となるのであった。そればかりでなく、彼らは、主を王として受け入れ、その権力に従うことを誓っていた。彼らのつぶやきは、今となっては反逆であった。イスラエルを無政府と滅亡とから守ろうとするなら、これは、反逆として直ちに厳罰が与えられなければならない。『主の火が彼らのうちに燃えあがって、宿営の端を焼いた』(民数記 11:1)。つぶやいた者のなかの最も罪深い人々は、雲の中からのいなびかりによって死んだ。」(同上 451, 452)

3. 肉に対する欲心を起こす

- a. 次に、イスラエル人は何について、つぶやきましたか。そしてつぶやきはだれから始まりましたか (民数記 11:4-6; 詩篇 78:18-20)。

「イスラエル人は、エジプトの奴隷生活の間、最も単純な食物を食べて生命をつなげなければならなかった。しかし、困苦と激しい労働と空腹のために、それをおいしく食べることができた。ところが、彼らと一緒に来ていたエジプト人の多くは、ぜいたくな食事になれていた。まず、このような人々がつぶやき始めたのである。イスラエルがシナイに到着する直前に、マナが与えられたとき、主は彼らの熱心な願いに応じて肉をお与えになったが、それはただ一日だけのことであった。

神は、マナと同様に肉もたやすくお備えになることができたのであるが、それが与えられなかったことは、彼らのためを考えた上でのことであった。多くの者がエジプトで食べ慣れていた刺激性の食物よりも更により食物を与えることが、神のみこころであった。ゆがめられた食欲を、もっと健康な状態にもどさなければならなかった。それは、神がエデンの園で、アダムとエバにお与えになった地の果実など、人間に最初に与えられた食物を楽しむことができるようになるためであった。イスラエルの人々に動物の肉がほとんど与えられなかったのは、こうした理由からであった。」(人類のあけぼの上巻 449, 450)

「思いの状態は、体の健康、特に消化器官の健康と大いに関連している。全般的に、主はご自分の民に荒野で肉食をお備えにならなかった。なぜなら、この食事をを用いることは病気と不服従を生じさせることをご存じであったからである。気質を修正するために、また思いのより高い力を活発に働かせるために、主は彼らから死んだ動物の肉を取り除かれた。このお方は、天使のパン、すなわち天からのマナを彼らにお与えになった。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1112, 1113)

- b. どのように彼らの肉に対する要求は答えられましたか。その結果は何でしたか(民数記 11:31-34; 詩篇 78:26-32)。

「神は、人々があまりにもほしがるために、彼らのために、最善のものではなかったが、お与えになった。彼らは、自分たちのからだのためになるものでは満足しなかったのである。彼らの反逆的欲求は満たされたけれども彼らは、そのために苦しまなければならなかった。彼らは、食べたいだけ食べた。彼らの不節制は直ちに罰せられた。」(人類のあけぼの上巻 457)

4. わたしたちのための教訓

- a. イスラエル人はすでに素朴で単純な食物を用いていましたが、彼らはその前のどの警告を無視していましたか（出エジプト 23:2（上旬））。神の方法についてつぶやいたり、文句を言ったりするよう誘惑されるとき、わたしたちはどうすべきですか（詩篇 107:21, 22; ペリピ 4:6, 7）。
- b. 荒野におけるイスラエルの反逆的な態度から、他にどのような教訓を学ぶべきですか（コリント第一 10:5, 6）。

「神は、イスラエルの人々を、純潔で清く幸福な国民として、カナンに確立させるためにエジプトから連れ出されたのである。この目的を達成するために、神は彼らに訓練の過程をお与えになった。それは彼ら自身のためであるとともに、彼らの子孫のためであった。彼らが神の賢明な制限に従って、快く食欲を制したのであれば、彼らのうちには、衰弱と病気はなかったことであろう。彼らの子孫は、身体的にも、精神的にも活気にあふれていたことであろう。彼らは、真理と義務に関する明らかな知覚、鋭い識別力、健全な判断力を持っていたことであろう。しかし、神の制限と要求に快く従わなかったことが大きな理由となって、彼らは神が望まれた高い標準に到達できず、神が与えようとしておられた祝福を受けることができなかった。」（人類のあけぼの上巻 451）

- c. わたしたちが確実に邪悪な事柄に対する欲心を起こすことがないようにするため、まず何をする必要がありますか（ローマ 13:14）。

「わたしたちは魂に対して争う罪に対して戦わなければならない。あなたは自分自身の力でこの働きをすることはできないが、信仰のうちにイエスの許へ来ることができる。このお方はあなたを助け、あなたが悪の傾向を捨て去るためにあなたを強め、ご自分のご品性の真の麗しさにあなたを飾ってください。わたしたちは主イエスを着るように訓告されている。単純な信仰と従順は手に手を取っていく。神の聖なる律法への従順を伴わないあなたの信仰は役に立たないが、神への従順と捧げられた偉大な犠牲を信じる信仰—このお方の血があなたのために注がれ、あなたがキリストの義を受け入れること—は、あなたを勝利者にする。イエス・キリストに信頼を置きなさい。そうすればこのお方はあなたを勝ち得てあまりある者としてくださる。」（ユース・インストラクター 1886 年 8 月 18 日）

5. 妬みという毒

- a. ハゼロテで、モーセとは対照的なアロンとミリアムの品性を明らかにするような、何が起こりましたか（民数記 12:1-9）。

「神はモーセを選んで、神の霊を彼の上にお与えになったのである。そして、ミリアムとアロンは、つぶやいたことによって、定められた指導者に対してばかりでなく、神ご自身に対して、不忠誠の罪を犯したのである。つぶやいた扇動者たちは、幕屋に呼ばれ、モーセと顔を合わせた。……彼らが預言の賜物を与えられていたことはなにも拒否されなかった。神は、彼らとも夢と幻のうちにお語りになったことがあったであろう。しかし、主ご自身が『わたしの全家に忠信なる者である』と宣言されたところのモーセには、それよりもっと親密な交わりが与えられていた。神は、モーセとは口ずから語られた。」（人類のあけぼの上巻 460-461）

- b. 神はどのようにご自分のご不興を示されましたか。またモーセが彼女のために嘆願したとき、どのようにミリアムの刑罰は軽減されましたか（民数記 12:10-16）。

「ねたみは人の心の中の最も悪魔的性質の一つであって、最も恐ろしい結果を生じるものである。賢者は言っている。『憤りはむごく、怒りははげしい、しかしねたみの前には、だれが立ちえよう』（箴言 27:4）。……

人のことを悪く言ったり、他の人の動機や行為をさばくことは、小さいことであると思ってはならない。……

われわれは、神が尊ばれた人々を尊ばなければならない。神が、神の働きの重荷を負わせられた人々をねたみ、つぶやくすべての者にとって、ミリアムに下った罰は、自分に対する譴責であると思わなければならない。」（同上 461, 462）

個人的な復習問題

1. 神はどのようにご自分の民をその道中導かれましたか。このお方は今日、わたしたちをどのように導かれますか。
2. イスラエル人が、どのようにモーセが自分たちを導くかについてつぶやいたことは、なぜそれほど罪深かったのですか。
3. なぜ神は今日、単純な菜食に従うことを望んでおられるのですか。
4. 食欲における自己否定から、どのような祝福がもたらされますか。
5. わたしたちは時に、どのようにミリアムと同じような方法で妬み深くなりますか。

カデシでの反逆

「ただし、わたしのしもべカレブは違った心をもっていて、わたしに完全に従ったので、わたしは彼が行ってきた地に彼を導き入れるであろう。彼の子孫はそれを所有するにいたるであろう。」(民数記 14:24)

「主は、イスラエルを直ちに滅ぼすことはしないとお約束になった。しかし、彼らの不信とおくびょうのために主は、彼らの敵を征服するために力をあらわすことができなくなった。そこで、主は、あわれみのうちに、唯一の安全な道として、彼らに紅海にもどることをお命じになった。」(人類のあけぼの上巻 469-470)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 463-475

日曜日

5月3日

1. 斥候がカナンへ派遣される

- a. どの目的のために、斥候はカデシからカナンの地へと派遣されましたか。実際には斥候たちがカナンの地に行くようにというのはだれの考えでしたか (民数記 13:1-3; 17-20; 申命記 1:20-25)。
- b. 何日後に斥候たちはカデシへ戻ってきましたか。またその地の肥沃さが目に見えるどのようなしるしを彼らは持ち帰りましたか (民数記 13:21-26)。

「彼らは出かけて行った。そして、彼らは、南の国境からはいって、北の果てまで進んだ。彼らは、出かけてから四十日たって帰ってきた。イスラエルの人々は、大きな希望をいだいていた。そして、期待に胸をふくらませて待っていた。斥候たちの帰った知らせが、部一族から部族へと伝わり、歓呼の声があがった。人々は走り出て、危険な任務を果たして無事に帰ってきた使者たちを出迎えた。斥候たちは、地が肥えていることを示すくだもの見本を持ってきた。」(人類のあけぼの上巻 463, 465)

2. 斥候たちの報告

a. 斥候たちはどのような報告を持ってきましたか (民数記 13:27-29, 31-33)。

「カナンを占領しようとする試みは、みな阻止しようと〔10人の斥候たち〕は決心した。彼らは、自分たちの与えた悪影響をいかにもまことらしくするために、真実を曲げたのである。……人が一度不信を心にいだいてしまうならば、彼らは、サタンの支配に身をゆだねたのであって、どこまでサタンにひかれていくかわからないのである。」(人類のあけぼの上巻 467)

b. カレブとヨシュアの応答は何でしたか (民数記 13:30; 14:6-9)。今日、最も大きな必要の一つは何ですか。

「カレブたちが、わたしたちの働きの歴史の様々な時代において大いに必要とされている。今日、わたしたちは徹底的な忠誠の人々、主に完全に従う人々、語らなければならないときに黙る傾向になく、原則には鋼のように真実で、大げさに見せかけようとしな人々、かえって神と共にへりくだって歩み、忍耐強く、親切で、好意的で、礼儀正しい人々、祈りの科学は信仰を働かせることであることを理解し、神の栄光と神の民の善について語るわざを示す人々が必要とされている。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1113)

c. 民は斥候たちの矛盾した報告をどのように受けましたか (民数記 14:1-4, 10)。

「斥候たちがサタンにそそのかされて失望し、彼らの不信を口にしたとき、人々の希望と勇気は絶望にかわった。彼らの不信仰は、会衆の上に暗い影を投げ、選民のためにくり返し表わされた神の大きな力を忘れさせた。人々は落ちついて反省しようとしなかった。ここまで彼らを導かれたおかたが、必ずこの土地をお与えになることを彼らは考えなかった。神がどんなに驚くべき方法で、海を開いて道となし、パロの跡軍を滅ぼして、圧制者より救ってくださったかを、彼らは思い起こさなかった。……」(人類のあけぼの上巻 465, 466)

「暴動が起こり、公然と反旗をひるがえす者があいついで起こった。なぜなら、サタンが完全に指導権を握り、人々は理性を失ったのかと思われた。……」(同上 467)

3. 民がつぶやく

- a. 民が臆病な報告を受け入れ、反逆的になるのを見たとき、モーセとアロンは、どのように行動しましたか (民数記 14:5)。

「恥と苦悩に心を痛めて、『モーセとアロンはイスラエルの人々の全会衆の前でひれふした』(民数記 14:5)。彼らは、人々のこうした無分別な激しい考えをどうして思いとどまらせたらよいかわからなかった。カレブとヨシュアは、騒動を静めようと試みた。悲しみと怒りの表現として、彼らは衣を裂いて人々の中に飛び込んでいった。そして、鳴り響く大声で暴風のように泣きわめく声と反逆的悲嘆の声を圧倒して、彼らは言った。『わたしたちが行き巡って探った地は非常に良い地です。もし、主が良しとされるならば、わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。ただ、主にそむいてはなりません。またその地の民を恐れてはなりません。彼らはわたしたちの食べ物にすぎません。彼らを守る者は取り除かれます。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません』(民数記 14:7-9)。」(人類のあけぼの上巻 468)

- b. 主はこの重大な時に、どのように介入なさいましたか。またこのお方は何と仰せになりましたか (民数記 14:10-12)。

「不忠実な斥候たちは、口をきわめてカレブとヨシュアを責めた。そして、彼らを石で打てという声があがった。気の狂った群衆は石をつかんでこの忠実な人々を殺そうとした。彼らは狂ったような叫び声をあげて前進した。ところが急に、彼らの手から石は落ち、声は静まり、彼らはふるえおののいた。神が彼らの殺意をとどめるために介入なさったのである。神の臨在の栄光が、燃える光のように幕屋を照らした。すべての民が主のしるしを見た。彼らよりも大きな力のあるおかたが、ご自身をあらわされた。こうなっては、あえて反逆しつづける者はひとりもなかった。悪い報告をした斥候たちは、恐怖に身を縮めて、息せき切って天幕に帰った。」(同上 469)

- c. モーセが主に嘆願したとき、彼はイスラエルの民を許し、命を救って下さるようにと主にどの理由を持ち出しましたか (民数記 14:13-19)。

4. つぶやく者たちが罰せられる

- a. 主はつぶやく者や反逆者たちにどの宣告をなさいましたか（民数記 14:22, 23, 29-33）。

「人々は、反逆して、『この荒野で死んでいたらよかったのに』と叫んだ。今この願いは聞かれることになった。……。斥候たちが、四十日の旅をしたのと同じように、イスラエルの軍勢は、四十年の間荒野をさまようことになった。」（人類のあけぼの上巻 470）

- b. 神は悪い報告を持ってきた十人の斥候たちを、どのように罰せられましたか（民数記 14:36, 37）。

「モーセが、この神の決定を人々に知らせると、彼らの怒りは悲しみに変わった。彼らは、その罰が正当なことを知っていた。十人の不忠実な斥候は、疫病にかかって、全イスラエルの目の前で死んだ。彼らの運命を見て、人々は自分たちの運命を知った。」（同上）

- c. 翌日、つぶやく者たちはどの僭越の罪を犯しましたか。その結果は何でしたか（民数記 14:39-45）。

「ついに降伏するほかになく、生き残った者たちは『帰ってきて、主の前で泣いたが』主は彼らの声を聞かれなかった（申命記 1:45）。大軍の接近を恐怖に震えながら待っていたイスラエルの敵は、この大勝利によって、イスラエルに抵抗する確信を持つようになった。彼らは、これまで神がその民のために行なわれた驚くべきことを聞いていたが、それを今はみな偽りであったとし、なんの恐れる理由もないと感じるようになった。このイスラエルの最初の敗北は、カナン人に勇氣と決意を起こさせた。これは、彼らの征服を非常に困難なものにした。イスラエルは、勝ち誇る敵の前から退却して、荒野へ行くほかなかった。彼らは、その世代のすべての者が荒野を墓場としなければならないことを知っていた。」（人類のあけぼの上巻 475）

5. 神のみこころに添うた悲しみに足りない

- a. どのような種類の悔い改めが救いに導きますか（コリント第二 7:10）。イスラエル人の悲しみは何が欠けていましたか。

「今となつては、〔民〕は、自分たちの罪深い行為を心から悔いているように思えた。しかし、彼らの悲しみは、忘恩と不従順を感じたからではなく、むしろ彼らの悪行の結果のためであった。主がお決めになったことを容赦なくなさることがわかったとき、人々はまたわがままな気持ちを起こし、自分たちは荒野に帰りたいと主張した。神が、敵の地から引き返すようにお命じになったのは、彼らの表面的服従が真実かどうかを試みておられたのであったが、それが真の服従でなかったことが明らかになった。……彼らの心に変化はなかった。そして、彼らは、また似たような暴動を起こすきっかけを必要としていたにすぎなかった。……

彼らの罪がそのまま目の前に示されたときに、彼らが自分たちの罪を悲しんだのであれば、この宣告は与えられなかったはずであった。だが、彼らは、この刑罰を悲しんだ。彼らの悲しみは、悔い改めではなかったから、この宣告の取り消しを得ることはできなかった。」（人類のあけぼの上巻 470, 471）

- b. 真の悔い改めには、何が伴いますか（使徒行伝 3:19）。

「許されるために、罪人は神に対する悔い改めを働かせなければならない。このお方の律法を犯したのである。そしてキリスト、すなわち自分の贖罪の犠牲を信じる信仰を働かせなければならない。真の悔い改めなしには、真の改心はあり得ない。」（預言の霊 4 巻 298）

個人的な復習問題

1. 民が地を探るために斥候を送りたがった事実、何が表されていきましたか。
2. 不信は十人の斥候と会衆に総じて、どのように影響しましたか。わたしたちはどのようにして、似たような不信を示す可能性がありますか。
3. つぶやく人々の行いに対抗するために、真の指導者はどうしますか。
4. あなたは性急に語るときに、神にその言葉通りに受け取ってもらいたいと思いますか。
5. もしわたしが真に自分の罪を悔いているなら、それはわたし自身の生活に何をもたらしますか。

コラ、ダタン、アビラムの反逆

「イスラエルの人々のうち、会衆のうちから選ばれて、つかさとなった名のある人々二百五十人と共に立って、モーセに逆らった。」(民数記 16:2)

「これまでの反逆は、興奮した群衆が、突然衝動的に起こした民衆の混乱に過ぎなかった。しかし、今度のは神ご自身が任命された指導者の権威をくつがえそうとする決意から生じた根深い陰謀であった。」(人類のあけぼの上巻 477)

参考文献： 人類のあけぼの上巻 477-490

日曜日

5月10日

1. 陰謀

- a. イスラエル人たちが 40 年の間荒野でさまよわなければならないという主の決定の下でいらだっているときに、どのような陰謀が發展しましたか。陰謀の首謀者はだれでしたか(民数記 16:1-3)。
- b. モーセは神の召しを証明するため、陰謀者たちに、どのテストを提案しましたか(民数記 16:4-7, 16-18)。民はなぜ反逆者たちに同情しがちだったのですか。

「あやまちを犯し、譴責に値するものに、同情と賞賛ほど好ましいものはない。」(人類のあけぼの上巻 480)

「民はもしコラが、自分たちの失敗を思い起こさせる代わりに、自分たちを導き、励まし、自分たちの義なる行為を力説するなら、非常に平和で繁栄に満ちた旅になるであろう、そして彼は疑いの余地なく、彼らを荒野をうろうろする代わりに、約束の地へ導き入れるであろうと思った。彼らは地に入ることができないと言ったのはモーセであって、主がそう言われたのではないと言った。」(靈的賜物 4A 巻 31)

2. モーセの訴えと警告

- a. モーセはどのように主要な反逆者を説得しようとしたか。また彼らは何についてモーセを非難しましたか (民数記 16:8-15)。

「ダタンとアビラムは、コラほどの強硬な態度をとらなかった。そこでモーセは、彼らが全く墮落して共謀に加わったのではなかろうと思って、彼らをモーセのところに呼んで彼に対する彼らの苦情を聞こうと思った。しかし、彼らは、来ようとせず、無礼にも彼の権威を認めなかった。……

このようにして、彼らは自分たちの奴隷状態を、主が約束の地を描かれたのと全く同じ言葉で描いた。彼らはモーセが自分の権威を確立するために、神の指示のもとに行動しているふりをしたと非難したのである……

人々の同情が、謀叛を起こした側に集まることは明白であった。しかし、モーセは自己を弁護しようとはしなかった。彼は、彼の動機が純粹で、彼の行動が正しいことを神があかししてくださるように、人々の前で厳粛に神に訴えて、神が彼の裁判官になってくださるように哀願した。」(人類のあけぼの上巻 482, 483)

- b. モーセとアロンは会衆を破滅から救うために、どのような努力をしましたか (民数記 16:22-30)。彼らの努力の結果は何でしたか。

「[モーセとアロン] は、ひれ伏して、祈って言った。『神よ、すべての肉なる者の命の神よ、このひとりの人が、罪を犯したからといって、あなたは全会衆に対して怒られるのですか』 (民数記 16:19, 21, 22)。

モーセが、彼のところに来ることを拒んだ人々に最後の警告を与えるために、七十人の長老たちと共に下っていったときに、コラは会衆から退いて、ダタンとアビラムに加わった。群衆は従ってきた。モーセは、彼の使命を伝えるに先だち、神の指示によって、人々に命じた。『どうぞ、あなたがたはこれらの悪い人々の天幕を離れてください。彼らのものには何にも触れてはならない。彼らのもろもろの罪によって、あなたがたも滅ぼされてはいけないから』と人々に命じた (民数記 16:26)。みなのは、刑罰が下されようとしているのを知って、この警告に従った。反逆の主謀者たちは、彼らが欺いてきた者たちから捨てられたことを知ったが、その不敵な態度を変えなかった。彼らは、神の警告を無視するかのように、家族と共に天幕の入口に立っていた。」(同上 483, 484)

3. 罰せられた反逆者たち

a. 反逆者たちに、どのような破滅がふりかかりましたか (民数記 16:31-35)。

「イスラエルの人々は、次に何が起こるかと思つて、恐怖におびえながら、いっせいにモーセを見つめて立っていた。彼が語り終えると、堅い大地が裂けて、反逆者たちは彼らのすべての持ち物と共に、生きながら穴の中に落ちていった。そして、『彼らは会衆のうちから、断ち滅ぼされた』 (民数記 16:33)。人々は、その罪に関与した自責の念にかられて逃げ去った。

しかし、刑罰はこれで終わったのではなかった。雲から火がひらめいて、薫香を供えた二百五十人のつかさたちを焼き尽くした。この人々は、最初に反逆したのではなかったで、首謀者たちと共に滅ぼされなかった。彼らは首謀者たちの最後を見て、悔い改める機会が与えられた。しかし、彼らは反逆者に共鳴し、彼らと運命を共にした。」 (人類のあけぼの上巻 484, 485)

b. 神が無差別に罰することはなさらないことが、どのようにわかりますか。だれの命は救われましたか (申命記 24:16; 民数記 26:9-11; 歴代志上 9:19)。ここから、どの教訓を学ぶことができますか。

「子供たちは親の罪の罰を受けるのではなかった。しかし、子供たちが、親に与えられたすべての光を知った上で、さらに自分たちに与えられた光を拒むとき、彼らは親の罪にあずかる者となり、彼らの悪の升目を満たすのであった。」 (各時代の大争闘上巻 15)

モーセが、切迫している刑罰からのがれるように、イスラエルに嘆願したとき、もし、コラと彼の仲間が悔い改めて許しを求めたならば、神の刑罰は、そのときでも止められたのであった。しかし、彼らの頑迷さが彼らの運命を決定したのである。……しかし神は、大いなるあわれみをもって、反逆の指導者と、指導に従ったものとを区別された。欺かれてしまった民には、まだ悔い改める余裕が与えられていた。彼らが誤っており、モーセが正しいという圧倒的証拠が与えられた。著しい神の力のあらわれによって、すべての疑惑が取り除かれた。」 (人類のあけぼの上巻 485)

c. 反逆者たちの火ざらから何が作られましたか。何の目的のためでしたか (民数記 16:36-40)。

4. 民が罰せられる

- a. 会衆に与えられた証拠にもかかわらず、彼らはモーセとアロンに対して、翌日、どのような道に進みましたか (民数記 16:41)。

「神が自分たちを救うために用いられる器を拒否し、軽べつすることほど、神への大きな侮辱はあり得ない。イスラエル人は、そうしたばかりでなくて、モーセとアロンをふたりとも殺害しようとたくらんだ。しかし、彼らは、自分たちのこうした恐ろしい罪の許しを神に求める必要を認めなかったのである。猶予の夜は、悔い改めと告白ではなくて、彼らが大罪人であることを示した証拠に抵抗する手段を工夫するために過ごされた。彼らはなお、神が任命された人々を憎み、その権威に逆らおうとした。サタンは、彼らの判断力をゆがめ、盲目にして滅びに陥れようとしていた。」(人類のあけぼの上巻 486)

- b. どのような方法において、主は厳しい刑罰により、もう一度介入なさいましたか。またモーセとアロンは裁きを回避するために、何をしましたか (民数記 16:44-49)。

「神がみ手を伸ばして、悪を行う者たちを飲み尽くし、民は恐怖で自分たちの幕屋に逃げた後でさえ、彼らの反逆は癒されなかった。彼らの不満の深さが、主の裁きの下にあってさえ表された。コラ、ダタン、アビラムとその共謀者たちの滅亡の翌朝、民はモーセとアロンのもとへやってきて、『あなたがたは主の民を殺しました』と言うのであった。神の僕に対するこの偽りの告発のために、さらに幾千もの人々が殺された。なぜなら、彼らのうちに、罪、誇り、僭越の悪があったからである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホバ・メント I] 巻 1114)

「モーセにはなんの罪もなかったから、恐れをいだかなかった。彼は、急いで会衆を離れて、彼らを滅びるままにしておかなかった。モーセは、この恐ろしい危機にあって、自分が飼っている群れに対して真の羊飼いとしての思いやりをみせて、そこを去ろうとしなかった。彼は神の選民が、神の怒りによって全滅されないように嘆願した。こうした彼のとりなしによって、復讐の手は止められ、不服従で反抗的なイスラエルは全滅をまぬかれたのである。…」

薫香の煙とともに、幕屋でのモーセの祈りも神のもとにのぼっていった。そして疫病はやんだ。しかし、つぶやきと反逆の罪の結果として、一万四千人のイスラエル人が死んだのである。」(人類のあけぼの上巻 486, 487)

5. 反逆に対する証

- a. どのテストが祭司職に関する疑問に対して永久に決着をつけましたか。またどこにアロンの杖が証として保存されましたか (民数記 17:1-11)。

「彼らに神がはっきりとアロンと他のイスラエルの子らとの間を区別されたことを確信させるために、杖における顕著な変化はみな一晩のうちに起こった。」(SDA パイプ・コメント [E・G・ホイト・コメント] 1 巻 1115)

- b. この大反逆から、わたしたちにどのような警告がもたらされていますか (コリント第一 10:10, 11)。

「コラの滅亡の根底に横たわっていた同じ悪が、なお、存在しているのではなかろうか。誇りと野心は広く人の心を支配している。そして、この精神は、ねたみと、最高の地位を求める心を起こさせる。魂は神から離れ去って、無意識のうちにサタンの側に引かれるのである。多くの者、また、キリストの従者であると公言する者でさえ、自分を高めるために熱心に考え、計画し、努力している。そして、人々の共鳴と支持を得るためには、あえて事実をもまげ、主のしもべたちを偽って悪く言い、自己の心のいやしい利己的動機を、彼らの動機であるかのように非難するのである。十分の証拠があるにもかかわらず、虚偽をくりかえしているうちに、彼らはついにそれを事実であると思うようになる。神が任命された人々に対する民の信頼を失わせようとしていながら、自分たちは善事を行ない、真に神に奉仕していると思込むのである。」(人類のあけぼの上巻 488)

個人的な復習問題

1. わたしたちが悪いときに、どの態度が生来の心には心地よいですか。
2. ダタンとアビラムがモーセのもとへ来て語ることを拒んだとき、彼らのかたわらに立っていた彼らの家族について、どのような意味がありましたか。
3. コラの子供たちを取り扱われた神の方法から、わたしたちはどの教訓を学ぶことができますか。
4. コラとダタンとアビラムとその共謀者たちの滅亡後、民の反応は何でしたか。なぜこの態度は非常に危険なのですか。
5. 神に対する反逆の基には、心に抱いているどのような態度がありますか。

荒野を放浪する

「あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。」(申命記 8:2)

「荒野の放浪は、謀叛を起こし、つぶやいた人々に対する罰として決められただけでなく、成長しつつあった次の世代を訓練して、約束の国にはいる準備を与えるためのものでもあった。」(人類のあけぼの下巻 2)

参考文献： 人類のあけぼの下巻 1-7

日曜日

5月17日

1. 約束の地に入るのが遅れる

- a. イスラエルの子らは、再びカデシに行き、それからゼレデの川を渡るまでに、どれくらいの間、荒野を放浪しましたか(申命記 2:14)。なぜそのように長くかかったのですか。

「神はご自分が諸天において支配しておられるというはっきりとした証拠をお与えになった。そして反逆は死をもって罰せられた。ただ成人としてエジプトを出立した人々のうち二人だけが約束の地を見たのであった。民の放浪は、残りの者が荒野で葬られるまで延ばされた。」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1113)

「イスラエルがモーセによって自分たちに与えられた指示に従っていたなら、エジプトから旅を始めた者のうち一人として荒野で病気や死の餌食になって倒れるものはなかったはずであった。彼らは安全な導き手の下にいた。キリストは、もし彼らのご自分の導きに従うのであれば、自ら彼らを安全に約束の地へ導くと誓っておられた。この数にして百万を超える甚大な群衆はこのお方の直接の支配下にあった。彼らはこのお方の家族であった。彼らの一人びとりに、このお方は関心をもっておられた。」(同上 1118)

2. 神は備え、指導なさる

- a. 荒野における放浪の間、神の民に対する神の保護について、わたしたちにはどのような証拠がありますか（ネヘミヤ 9:19-21; 詩篇 105:37）。
- b. 成長している世代にとって、荒野の放浪は、どのように訓練となりましたか（申命記 8:2, 3）。

「神はご自分の民が困難を耐えることにおいて経験を得ることができるように、そして彼らが危険に会うときには神にのみ救済と救出があることを知ることができるように、荒野を通じてこれらの孤独な旅を許された。こうして彼らは神を知り、信頼することを学び、生きた信仰をもって神に仕えることができたのであった。」（両親、教師、生徒への勧告 409）

「イスラエルの人々が荒野を旅しているとき、歌によって多くのとうとい教訓が心にきざみこまれた。……シナイ山で与えられた律法は、神の恵みの約束やイスラエル人救済のくすしき神のみわざの記録とともに、天来の導きによって歌詞にあらわされ、楽器の音にあわせて歌われ、人々はこの賛美の歌声にあわせて歩調をとった。

こうして彼らの思いは、道中の試練や困難から高められ、落ちつきのない不穏な精神が和らげられ静められ、真理の原則が記憶にきざみこまれ、信仰が強められた。」（教育 32, 33）

- c. イスラエル人のうちに多くの者が約束の地に入ることができなかった主な理由は何でしたか。どのようにして同じ罪に陥るのを避けることができますか（ヘブル 3:7-14）。

「イスラエル人が荒野を四十年もさまようことは、神のみこころではなかった。……同じように、キリストの再臨がこのように遅れ、神の民がこのように 長く、罪と悲しみのこの世にとどまることは、神のみこころではなかった。しかし、不信が、彼らを神から引き離した。彼らが神に命じられた働きをすることを拒んだときに、使命を宣言するために他の者たちが起こされた。イエスは、世界をあわれんで、彼の再臨を延ばしておられる。それは、罪人に警告を聞く機会を与え、神の怒りが注がれる前に、主のうちに避難させるためである。」（各時代の大争闘下巻 182, 183）

3. 改心していない者たちの感化

a. どの種類の人々が、しばしば問題を起こす者になりましたか (民数記 11:4)。

「イスラエルの民と共に、エジプトから来た寄り集まり人は、いつも誘惑と紛争の原因であった。彼らは、偶像礼拝を捨て、真の神を礼拝すると言っていた。しかし、彼らの幼少期の教育と訓練は、彼らの習慣と品性をすでに形成しており、偶像礼拝と不敬虔な精神に少なからず感化されていた。彼らは、だれよりも争いを起こし、まっ先に不平を言い、偶像礼拝の習慣や神に対するつぶやきを宿営のなかに満たした。」(人類のあけぼの下巻 4)

b. 神は、不信者と結合することに関して、どのご命令をお与えになりましたか (申命記 7:3, 4; コリント第二 6:14)。今日はどうですか。

「[イスラエル人は] 偶像礼拝者とどんなつながりも持たないように、彼らと雑婚したり、あるいはどのような方法においても彼らの忌むべき事柄によって影響を受けたり、墮落したりする危険性のあるところへ身を置かないようにと警告された。彼らはすべての悪と見えることから遠ざかり、罪の境界線のあたりで手を出したりすることがないように勧告された。なぜなら、これはもつとも確かに罪と破滅へ巻き込まれる道だからである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 2 巻 1000)

「神は厳密に、ご自分の古代の民が他の国家と雑婚することを禁じられた。…しかし、異教徒たちは、この時代における悔い改めない人々、すなわち真理の光を持っていながら、なお執拗にそれを受け入れることを拒む人々よりも望ましい状態にあったのである。」(教会への証 4 巻 508)

c. 何がいつも改心していない人たちとの密接な交わりの結果ですか (コリント第一 15:33, 34)。

「クリスチャンが道徳力の緩んだ人々と交わるのは過ちである。知性や道徳力に少しも貢献することのない時間を使う緊密な日々の交わりは危険である。もし人々の周りの道徳的な雰囲気が純粋でなく聖化されておらず、墮落で汚染されているならば、この大気を呼吸する人は、ほとんど気づかないうちにそれが知性と心を毒し、破滅させるのを見いだすようになる。」(同上 3 巻 125)

4. 神の権威に対する軽視

- a. 神の権威に対する軽視と、第三条の戒めの違反は、どのように罰せられましたか（レビ記 24:10-16, 23）。

「あるときには、エジプトからイスラエル人と共にやって来た寄り集まり人のひとりであるエジプト人と、イスラエルの女との間のむすこが、彼の属する宿営を離れて、イスラエル人の場所へはいり、そこに自分の天幕を張る権利を主張したのである。これは、神の戒めが禁じていたことであって、エジプト人の子孫は三代まで会衆から除外されていたのである。そこで、彼とイスラエル人との間の争いは、裁判にかけられて、彼の負けと決まった。

彼は、この決定に激怒し、裁判官をのろい、興奮のあまり、神の名を汚したのである。…神ご自身が判決をくだされた。神を汚した者は、神の指示のもとに宿営の外に連れ出されて、石で、打たれた。彼の罪の証人たちが、彼の頭に手をおき、彼に対する告訴が真実であることを厳粛に証明した。それから、彼らが最初に石を投げ、そのあとで、そばに立っていた人々が刑の執行に加わった。」（人類のあけぼの下巻 3, 4）

- b. これらの犯罪への刑罰は、なぜこれほど厳しかったのですか（出エジプト 20:7）。

「このようなきびしい刑罰が、興奮のあまり口にした言葉に課せられるなら、果たして神は愛と正義の神であろうかという疑問をもつ人々もあろう。しかし、神に敵意をいだいて発した言葉は大罪であることを示すことは、愛も正義もともに要求するところである。最初の違反者に与えられた罰は、他の者に対して、神のみ名を敬わなければならないという警告であった。しかし、もしこの人の罪が罰せられずにすんだならば、他の者たちは、規律を乱し、そのために多くの人の命が犠牲にされたことであろう。」（同上 4）

- c. わたしたちは今日、時に、どのようにして神の権威に対する軽視を表しますか（士師記 17:6）。

「この時代の罪は、神の表現されたご命令を無視することである。」（教会への証 3 巻 483）

5. その代わりに従順を選ぶ

- a. なぜ主はご自分の古代の民に、従順を要求されたのですか (申命記 6:1, 2, 24, 25)。真の従順は、どこから沸き起こりますか (申命記 6:5, 6)。

「すべての真の服従は心から生れる。キリストにとってはそれは心の働きであった。もしわれわれが承知するなら、キリストはわれわれの思いやこころざしと一体となり、われわれの心と思いとを一つにしてご自分のみこころに一致させてくださるので、キリストに従うときに、われわれは自分自身の衝動を実行しているにすぎない。意志は洗練され、きよめられて、主のご用をなすことに最高のよろこびをみいだす。神を知ることはわれわれの特権であるが、このように神を知るときに、われわれの生活は変わることはない服従の生活となる。キリストのご品性の真価を認めることによって、神とまじわることによって、罪はわれわれにとって憎むべきものとなる。」(各時代の希望下巻 150)

- b. どこから従順を教え始めるべきですか。なぜですか (申命記 6:7-9)。

「子供は、赤ん坊の時から、親に従うこと、親の言葉を守ること、また親の権威を尊ぶことを教えられるべきである。…自分の両親を敬い、従順を表すことによって、彼らはどのように自分たちの天父を敬い、従うかを学ぶことができる。」(家庭の教育 71)

「青少年や幼い子供たちに、天の職機で織られた高貴な衣、すなわち地上のすべての聖者たちに着ることを許される「光輝く、汚れのない垂布の衣」(黙示録 19:8) を自分のためにえらぶことを教えるべきである。キリストの汚れのない品性をあらわすこの衣は、すべての人に無償で与えられる。しかしこの衣を与えられる人はみなこの世において、これを受けとって身につけるのである。

子供たちが心を開いて、純真な愛の思いを持ち、人の助けとなる愛の行為をするとき、彼らは自らキリストの品性という美しい衣を見につけるのだということを、教えなければならない」(家庭の教育 191)

個人的な復習問題

1. もしイスラエル人がモーセに従っていたならば、彼らに何が起こっていたでしょうか。
2. 歌うことは、荒野の旅路において、どのような役割がありましたか。
3. 不信者との交わりにおいては、ただ何だけが自分たちの目的であるべきですか。
4. わたしたちは今日、どのように神の御名を崇敬することができますか。
5. わたしたちはどのようにキリストのご品性で、日々自らをまとうことができますか。

打たれた岩

「そのとき主はモーセとアロンに言われた、『あなたがたはわたしを信じないで、イスラエルの人々の前にわたしの聖なることを現さなかったから、この会衆をわたしが彼らに与えた地に導き入れることができないであろう』」（民数記 20:12）

「イスラエル人の思いから、人が自分たちを導いているのだという考えを永遠に追い払うために、神は彼らの指導者たちがカナンの地に入る前に死ぬことを許す必要があるのをご覧になった。」（SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 1 巻 1116）

参考文献： 人類のあけぼの下巻 8-20

日曜日

5月24日

1. 神がすべての必要を供給される

- a. イスラエル人は荒野での放浪の間、どのように水が供給されましたか（詩篇 105:41; イザヤ 48:21）。

「荒野におけるイスラエル人のかわきをいやした泉の水は、まず、最初にホレブの打たれた岩から流れ出た。彼らが、放浪していた全期間を通じて、必要な場合は、どんなところでも、神のあわれみ深い奇跡が行なわれて、水が供給された。しかし、水は、ホレブからいつまでも流れ出ているではなかった。彼らの旅の途中で、水が必要なきときには、どこでも宿営のそばの岩の裂け目から水がわき出た。」（人類のあけぼの下巻 8）

- b. 彼らの霊的な祝福と同様に、世俗的な祝福についてもすべて、その源はどなたでしたか（コリント第一 10:4）。

「〔キリストが〕あらゆる力の源であられ、すべての世俗的な祝福と霊的な祝福の与え主であられる。このお方は人間を協力者としてお用いになり、彼らにご自分の助け手として共に果たすべき役割をお与えになる。わたしたちがこのお方から受けるのは、自分を満足させるためにため込むためではなく、他の人々に与えるためである。」（ビュー・アンド・ヘアル 1907 年 4 月 4 日）

2. 民の信仰が試される

- a. 神の民は再びカデシに来たとき、どのような信仰の試練にありましたか。また彼らの反応はどのようなものでしたか (民数記 20:1-5)。

「ヘブルの軍勢がカデシに到着する少し前に、宿営の外にわいていた泉の水が枯れた。主は、もう一度、人々を試みようとなされたのである。彼らが、神の摂理に信頼するか、それとも、父祖たちの不信仰をまねるかどうかをためそうとされた。」(人類のあけぼの下巻 11, 12)

「神が、人々をカナンに入国させる前に、人々は、神の約束を信じたことを示さなければならなかった。彼らがエドムに到着する前に水は止まった。彼らは、しばらくの間、見るところによらず、信仰によって歩かなければならなかったのである。彼らは、この第一の試練にあつて、父祖たちと同じ狂暴で忘恩の精神をあらわした。宿営内で水を求める声があがるやいなや、彼らは、長年彼らの必要を満たしたみ手を忘れて、神に助けを求めるかわりに、神に向かってつぶやいた。」(同上 12, 13)

- b. モーセとアロンは民のつぶやきを聞いたとき、何をしましたか (民数記 20:6)。

- c. モーセとアロンは、民の必要を満たすために、何をするように指示されましたか (民数記 20:7, 8)。民はなおも誤った考えを抱いていましたが、神はどのようにそれを正そうとされましたか。

「彼らの放浪の間中、イスラエルの子らは神の特別な働き、すなわちエジプトのくびきから彼らを救出するために働かれた力強い奇跡をモーセのおかげだと考えようとした。彼らはエジプトの地から彼らを連れ出したのはモーセだと言って責めた。神がご自身を素晴らしい方法でモーセに表されたのは事実である。彼は特別にこのお方のご臨在をもって恩寵を受けてきた。彼に神はご自分のほなほだしい栄光を表してこられた。山の上で、このお方は彼をご自分に対して聖なる近さへ召し入れ、彼と友が語るように語られた。しかし、主は彼らの救出のために働いておられたのはご自身であるという証拠に次ぐ証拠を与えてこられた。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホバ・コメント] 1 巻 1115, 1116)

3. モーセとアロンが失敗する

a. モーセは民に語ったとき、どのように神の名誉を汚しましたか (民数記 20:9-11)。

「モーセは、性急な行動によって、神が教えようとした教訓の効果を無にしました。キリストを象徴した岩は、一度打たれたのである。そのように、キリストは一度ささげられたのであった。二度めには、ただ岩に命じるだけでよかったのである。それは、われわれがイエスの名によって、祝福を求めさえすればよいのと同じである。岩を二度打つことによって、この美しいキリストの象徴の意味がなくなってしまった。

それだけでなく、モーセとアロンは、ただ神だけに属する力をわがもの顔に装った。神の介入が必要であるということは、非常に厳粛な事態であった。イスラエルの指導者たちは、これを機会に人々の敬神の念を助長し神の力と恵みに対する信仰を強めなければならなかった。『われわれがあなたがたのためにこの岩から水を出さなければならぬのであろうか』と彼らは、怒って叫んだ。彼らは人間的弱さと情をもった彼ら自身にその力があるかのようにふるまい、自分たちを神の位置においたのである。」(人類のあけぼの下巻 15)

b. モーセとアロンは、どのような刑罰を自らにもたらししましたか。それはなぜですか (民数記 20:12; 申命記 3:23-27)。

「神は、この場合、その悪行によってモーセとアロンを怒らせた人々に罪の宣告をなさらなかった。譴責は、すべて指導者に下った。……モーセとアロンは、民のつぶやきが、彼らに対してではなく、神に対して行なわれたものであることを忘れて、人々が彼ら自身につぶやいていると感じた。彼らは、自分自身をながめて、自分たちを哀れに思い、無意識のうちに罪を犯し、神の前における人々の大きな罪を、彼らに示すことをしなかった。

非常にきびしく、屈辱的な刑罰がすぐに宣告された。……彼らは、ヨルダンを渡る前に、反抗的なイスラエルと共に死ななければならなかった。」(同上 15, 16)

「彼の罪は、全会衆に知れわたった。もし、それが軽々しく扱われたとすれば、責任の地位にある者が激しく試みられた場合ならば、不信仰も短気も許されるのであるという印象が残ったことであろう。しかし、一つの罪のために、モーセとアロンがカナンに入国できないと宣告されたときに、人々は、神が人のかたよりみるかたでなく、罪を犯す者を必ず罰せられるかたであることを知ったのである。」(同上 17, 18)

4. 打たれた岩、型

- a. 打たれた岩は、だれの型でしたか。またなぜ岩を再び打つことが悪かったのですか（イザヤ 53:3-5）。

「打たれた岩は、キリストの型で、この象徴によって、最も尊い霊的真理が教えられた。打たれた岩から生命を与える水が流れ出たように、『神にたたかれ』『われわれのとがのために傷つけられ』『われわれの不義のために砕かれた』キリストから、失われた人類のための救いの川が流れ出たのである（イザヤ書 53:4, 5）。岩が一度打たれたように、キリストも『多くの人の罪を負うために、一度だけご自身をささげられた』のである（ヘブル 9:28）。われわれの救い主は、二度と犠牲になられるべきではなかった。キリストの恵みの祝福を求めるものは、悔い改めて、主のみ名によって、心の願いを述べるだけでよいのである。こうした祈りは、イエスのみ傷を万軍の主のみ前にもたらし、新たにもう一度、生命を与える血潮を流れさせるのである。イスラエルのために岩から水が流れ出たことによって、それが象徴されていたのである。」（人類のあけぼの下巻 9）

- b. どの機会に、またどのように、岩から流れた水は、キリストの時代にユダヤ人によって祝われましたか（ヨハネ 7:37-39）。

「荒野で岩から水が流れ出たことは、イスラエルがカナンに定住したのちも、非常な喜びをもって祝われた。キリストの在世当時、この祝日は、最も感銘的な儀式となっていた。それは、各地からエルサレムに人々が集まってくるときに行なわれた仮庵の祭りとともに祝われた。祭司は、毎日、祭りの七日間を通じて、音楽を奏するものとレビ人の合唱隊を伴ってシロアムの泉に行き、そこで金の一つの容器に水をくむのであった。礼拝に集まった群衆は、彼らのあとに従った。そして、泉に近づくことのできる者はみなその水を飲んだ。『あなたがたは喜びをもって、救の井戸から水をくむ』と喜ばしい歌声があがるのであった（イザヤ書 12:3）。それから、祭司の手でくまれた水は、ラッパの響きと、『エルサレムよ、われらの足はあなたの門のうちに立っている』という歌声のなかを、宮までたずさえられた（詩篇 122:2）。そして、賛美の歌声が高まり、群衆が、楽器と荘重なラッパの音に和して高らかに歌う合唱隊に加わって歌っているとき、その水は、燔祭の壇の上に注がれた。」（同上）

5. わたしたちのための教訓

a. モーセの過ちから、わたしたちはどの教訓を学ぶべきですか（詩篇 106:33）。

「モーセは、人々が考えるほどの重罪を犯したわけではなかった。彼の罪は、普通一般のものであった。詩篇記者は、『彼がそのくちびるで軽卒なことを言ったからである』と言った（詩篇 106:33）。人間の判断では、これはささいなことに思われるであろう。しかし、もし神が、ご自分の最も忠実で尊ばれたしもべの罪に対してこれほどきびしい処置を取られたのであれば、他の者の罪も許されないことであろう。……人間の地位が重要であればあるほど、その感化は大きい。であるから、それだけで、忍耐とけんそんを養う必要も大きいのである。」（人類のあけぼの下巻 18, 19）

b. どの警告が、わたしたちを自己称揚から守るように意図されていますか（ヤコブ 4:6, 7; コリント第一 10:12）。

「その人の霊的光がどんなに大きくても、また、どんなに神の恵みと祝福にあずかっていても、常に主の前にけんそんに歩み、神がすべての思いを導き、すべての衝動を支配されるように嘆願しなければならないのである。……

どんな圧力が魂に加えられたにしても、犯罪は、われわれ自身の行為なのである。この世と陰府のいかなる力も、人間に悪を強制することはできない。サタンは、われわれの弱点を攻撃するが、われわれは負ける必要はない。攻撃がどんなに激しく、不意に襲ってきても、神はわれわれに助けを備えられた。われわれは、神の力によって勝利することができるのである。」（同上 19, 20）

個人的な復習問題

1. 神はどのようにイスラエル人が旅している間に水を供給されましたか。このお方は今日、わたしたちの必要を満たしておられますか。
2. 民は神が自分たちの信仰を試されるとき、どのように反応しましたか。わたしについては、どうですか。
3. モーセとアロンが失敗したとき、彼らの焦点はどこでしたか。わたしの焦点はどこでしょうか。またその結果は何になるでしょうか。
4. 打たれた岩の美しい教訓は、どのようにモーセによって損なわれましたか。
5. わたしはどのようにして自己称揚から安全に守られることができますか。

安息日 2020 年 6 月 6 日

第一安息日献金

世界のミッションのために

全世界の親愛なる兄弟姉妹の皆さん

わたしたちは地球歴史の終わりの時に生存

しており、わたしたちの主は長い間、わたしたちを家に連れて帰ろうと切望して待っております。預言的な事件はわたしたちの目前で成就しており、わたしたちにイエスの再臨は近く、門口にまで来ていることを告げています。残念なことに、福音のメッセージはまだ世界の果てまで伝わっておらず、すべての被造物に真理を聞く機会



会が与えられてはいません。「人々はまもなく、大きな決断に迫られるようになる。そして彼らは、知的に正しい側に立つことができるために、聖書の真理を聞き、理解する機会が与えられなければならない」(伝道 25)

キリストの体の肢体として、このお方のご品性を表し、わたしたちの時間、力、そして資金をこの特別な働きに委ねることによって、全世界を通じて福音を広めることに参加することは、わたしたちの特権です。わたしたちの教会員や友人たちの祈りと資金的な寄与により、新しいミッションが多くの地方で設立されつつあります。これらの新しいミッションはなお、彼らがしっかりと確立し、自援できるようになるまで、わたしたちの援助を必要としています。またその一方、新しい伝道地が開かれつつあります。毎年、祈祷週の時に、地球の多くの地域へメッセージを広めるのに必要な資金を満たすために特別献金を集めています。

「主の嗣業は不思議なほどになおざりにされている。そして神はご自分の民をこのことのために裁かれるであろう。誇りと誇示への愛着が累積された利益によって満たされている一方では、新しい伝道地が触れられずに放置されている。神の譴責は、ご自分の財産を扱う管理者の不正さと利己的な適用の上にもたらされている。」(教会への証 8 卷 59)

皆さんは自分の資金から惜しみなく捧げ、そうすることによって地は神の栄光で満たされ、イエスがまもなく来られるように、ご自分の努力を伝道者やその家族の努力と結びつけるのでしょうか。そうされることを願っています。

困窮している世界に代わって世界総会伝道支部

エドムを回避する旅

「そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。」(ヨハネ 3:14)

「荒野で青銅のへびが上げられたのは、信仰をもって見た人々が癒されるためであった。同様に神は人々に回復し癒すメッセージを送り、彼らに人や地上のものから目を離して、自分たちの信頼を神に置くよう招いておられる。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ウィット・コメント] 1 巻 1116)

参考文献： 人類のあけぼの下巻 21-36

日曜日

5月31日

1. エドムを回避した道

a. モーセはエドムの王に、どのようなメッセージを送りましたか。またどのような返答を受けましたか (民数記 20:14-18)。

「エドム人は、アブラハムとイサクの子孫で、神は、これらの神のしもべたちのゆえに、エサウの子孫に恵みをお与えになった。神は、彼らに、セイル山を領土としてお与えになった。そして、彼らが罪を犯して、神の恵みの圏外に行ってしまうまで、彼らを妨害してはならなかった。」(人類のあけぼの下巻 23)

b. イスラエルの指導者たちは、どのようにエドムの王に対して自分たちの訴えを新たにしましたか。彼の答えは何でしたか (民数記 20:19, 20)。民の側のどの失敗が、この否定的な経験においてサタンに決定的な優位性を与えてしまいましたか。

「イスラエル人は、敏速に、神の言葉に従って行動しなかった。そして、彼らが、ぶつぶつ不平を言っている間に、絶好の機会は去ってしまった。やっと王に願い出る準備ができたときに、それは拒否されてしまった。」(同上 22)

2. アロンの死

- a. エドムの地を通っていく代わりに、イスラエルの子らはどの道を取りましたか (民数記 20:21, 22; 21:4)。
- b. イスラエル人がホルの山へ来たとき、主はモーセとアロンに何と言われましたか (民数記 20:23-26)。

「モーセとアロンは、長年、その責任や労苦を共に負ってきた。彼らは、共に無数の危険に遭遇し、共に神の驚くべき祝福にあずかった。しかし、いまやふたりが別れなければならないときが近づいた。彼らは、非常にゆっくり進んで行った。お互いが一緒にいる一瞬一瞬がたいせつなものだったのである。登り坂はけわしく、苦しいものであった。彼らは、たびたび立ち止まって休息するごとに、過去や未来のことを語り合った。……彼らの心に反抗的感情はなく、つぶやきの言葉も彼らの口からもれなかった。しかし、彼らを父祖たちの嗣業から除外したものが何であったかを、彼らが思い出したとき、彼らの顔には、厳粛な悲しみがただようのであった。」(人類のあけぼの下巻 25, 26)

- c. アロンからエレアザルへ大祭司職の責任が委譲されるとき、どのような厳粛さが伴っていましたか。またどれくらいの間、アロンのためにイスラエルは喪に服しましたか (民数記 20:27-29)。

「モーセは深い悲しみに沈みながら、アロンのきよい衣服を脱がせて、エレアザルに着せた。こうして、エレアザルは、神の命令によってアロンの後継者になった。アロンは、カデシでの罪のために、カナンで神の大祭司の務めを行なう特権を失った。彼は、約束の地で最初の犠牲をささげ、イスラエルの嗣業を聖別することができなかったのである。モーセは、民を国境まで導く責任を続いてになわなければならない。彼は、約束の国が見えるところまで来るのであったが、なかにはいることはできなかった。これらの神のしもべたちが、カデシの岩の前に立ったときに、遭遇した試練につぶやくことなく耐え得たならば、彼らの将来はどんなに変わったことであろうか。一つのまちがった行為は、二度と元にもどすことができない。一瞬の誘惑、または、無分別によって失われたものは、一生かかってもとり返すことができない。」(同上 27)

3. アラド王の敗北

- a. アロンの死の直後に、だれがイスラエルを襲いましたか。その結果は何でしたか（民数記 21:1-3）。

「ホル山を去ってから間もなくして、イスラエル人は、カナン王のひとりのアラドと戦って敗北した。しかし彼らは、熱心に神の助けを祈り求めたので、神からの援助が与えられて敵を追い返すことができた。ところが、この勝利は、人々に感謝の気持ちと、神に依存していることを感じさせるかわりに、高慢と自尊の精神をいだかせた。」（人類のあけぼの下巻 30）

- b. 主に感謝する代わりに、民は再びどのような習慣をぶり返しましたか（民数記 21:4（下句）, 5）。

「やがて彼らは、以前の習慣にもどってつぶやいた。約四十年前、斥候たちの報告を聞いて反逆を起こした後、すぐにカナンにイスラエルの軍勢を進軍させることを許されなかったことを、今、彼らは不満に感じたのである。彼らは、現在と同様に、これまでも敵を征服することができたかも知れなかったと考え、荒野の放浪は不必要な遅延であったと言った。

彼らが南に向かって旅を続けたとき、行く手には、緑も、影もない熱い砂の溪谷が横たわっていた。道は長くけわしく思われ、彼らは、疲労とかわきに悩まされた。ふたたび彼らは、信仰と忍耐の試練に耐えることができなかった。彼らは、自分たちの経験の暗い面ばかりをながめて、ますます神から遠ざかった。もし、カデシで水が止まったときに、つぶやきさえしなかったならば、エドムを迂回して旅をしなくてもよかったであろうということに、彼らは気づかなかった。神は、彼らのために、もっとすぐれたことを計画しておられた。彼らは、自分たちの罪に対する神の罰が軽かったことを、神に感謝しているべきであった。しかし、彼らはそうしないで、もし神やモーセが妨害しなかったならば、今ごろは、約束の国を所有していたことであろうとうぬづれた。彼ら自身で問題を引き起こして、自分たちの運命を神のご計画よりもはるかに困難なものにしながら、彼らの不運をすべて神のせいにした。こうして、彼らは、自分たちに対する神の取り扱いに不平をいだき、ついにはすべてのことに不満をいだくようになった。自由と、神が導き入れようとしておられる国よりも、エジプトのほうがはるかに輝かしく好ましく思われるのであった。」（同上 30, 31）

4. へびにかまれる

- a. 民の不当なつぶやきのゆえに、主はイスラエルの宿営に何が入り込むことを許されましたか（民数記 21:6）。

「彼らは、神の力に保護されていたために、彼らを常に取り囲んでいた無数の危険に気づかなかったのである。彼らは、忘恩と不信のうちに死んでしまうと思っていた。そこで、主は、彼らに死がのぞむことをお許しになった。荒野にはびこっていた毒へびは、それにかまれると激しい炎症を起こして死ぬので、火のへびと呼ばれていた。神の保護のみ手がイスラエルから取り除かれると、多くの人々が毒へびにかまれた。

こうして、宿営全体が恐怖と混乱に陥った。すでに死んだ人や、死にかけた人がどの天幕にも出た。だれひとり安全ではなかった。時おり、新しい犠牲者が出たことを示す激しい叫びが、夜の静けさを破った。すべての者は患者の看護をしたり、あるいは、まだかまれていない者たちを保護しようとして必死に努めていた。いま、彼らのくちびるからは、つぶやきの言葉は漏れなかった。今の苦痛と比べるならば、これまでの彼らの困難や試練は、全くとるに足りないもののように思われた。」（人類のあけぼの下巻 32）

- b. 民は自分たちの反逆的な態度のゆえに主が罰しておられることを悟ったとき、何をしましたか。またどの治療法が提供されましたか（民数記 21:7-9）。

「モーセは、本物に似せて青銅のへびを作り、それを人々のなかにかかげるようにという命令を神から受けた。かまれた者は、すべて、このへびを見上げて助かるのであった。……

人々は、それを見上げる者にこうした変化を起こさせる力が、青銅のへびにはないことをよく知っていた。いやしの力は、神からだけ来るものであった。知恵に富まれる神は、このような方法によって、ご自分の力をあらわされた。この簡単な方法によって、この苦難が、自分たちの罪のために起こったことを人々はさとられた。それと共に、神に服従するならば、何も恐れることはないという保証が与えられたのである。なぜなら、神は、彼らを守られるからであった。」（同上 33）

5. 罪のための治療法

- a. 青銅のへびは、だれの型でしたか (ヨハネ 3:14, 15; アモス 5:4)。

「イスラエルの人々は、上げられたへびを見ることによって救われた。こうしてながめたことは、信仰を意味していた。彼らは神の言葉を信じ、神が彼らの回復のためにお備えになった方法に信頼したから、生きたのである。そのように、罪人は、キリストを仰ぎ見て生きることができる。罪人は、贖罪の犠牲を信じる信仰によって許しを受ける。命のない動かないへびとは違って、キリストは悔い改める罪人をいやす力と功績を、ご自身のうちに持っておられる。」(人類のあけぼの下巻 34)

- b. わたしたちは唯一、だれによって、またどのように癒されることができますか (詩篇 103:2, 3; ペテロ第一 2:21, 24)。

「キリストがなければ自分たちはどんなに無力であるかを自覚しても失望することなく、十字架につけられ復活なさった救い主の功績に頼らなければならない。見よう、そして、生きよう。イエスは、約束なさった。イエスは、彼に来るすべての者をお救いになる。いやしを受けるべき幾百万の人々が、イエスのあわれみの招きを拒んだとしても、イエスの功績に頼る者は、ひとりも滅びることはない。(同上 36)

「罪人は、自分自身を救うことはできない。しかし、救いを得るためには、彼のなすべきことがある。『わたしに来る者を決して拒みはしない』とキリストは言われる (ヨハネ 6:37)。われわれは、彼のところに来なければならない。そして、罪を悔い改めるときに、キリストはわれわれを受け入れ、ゆるしてくださることを信じなければならない。信仰は、神の賜物である。しかし、信仰を働かせる力は、われわれに与えられている。」(同上 34, 35)

個人的な復習問題

1. なぜエドム人は直ちに滅ぼされなかったのですか。
2. モーセとアロンの経験から、ただ一つの行為が遠大に及ぶことについて、どのような教訓を学ぶことができますか。
3. どのような思考パターンが、つぶやきへと導きますか。どのようにしてこれを避けることができますか。
4. どの単純な治療法が、へびにかまれた人々のために備えられましたか。青銅のへびのどこに癒やしの力がありましたか。
5. 罪から救われるために、どこを見る必要がありますか。見ることには何が含まれていますか。

シホンとオグに対する勝利

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ、」（詩篇 37:5）

「指導者の冷静な信仰は民の心に神に対する確信をいだかせた。彼らは、主の全能のみ腕にすべてをゆだねた。そして主は彼らを見捨てられなかった。強力な巨人も、城壁のある町々も、武装した軍勢も、岩のとりでも、主の軍勢の将の前に立つことはできなかった。」（人類のあけぼの下巻 41）

参考文献： 人類のあけぼの下巻 37-43

日曜日

6月7日

1. 破滅をもって脅かされるイスラエル

- a. モアブ人とアンモン人に関してイスラエルは、どのような指示を与えられましたか（申命記 2:9, 19）。
- b. イスラエル人がアモリ人の地に到着したとき、モーセは彼らの王であるシホンにどのようなメッセージを送りましたか。彼の返答は何でしたか（申命記 2:26-30; 民数記 21:21-23）。

「[シホンの] 答えは断固とした拒絶であった。こうして、全アモリ軍は召集され、侵入者の行く手をはばもうとした。この大軍は、イスラエル人を恐怖に陥れた。彼らには武装を整え、訓練の行き届いた軍隊と戦う準備がなかった。戦闘の技術では、敵が有利であった。人間の見るところでは、イスラエルがすぐ滅ぼされるのは明らかであった。

しかし、モーセは雲の柱にしっかりと目をとめ、神の臨在のしるしが今なお彼らと共にあると語って民を励ました。同時に、彼は、人力の限りを尽くして戦いの備えをするように命じた。敵は戦争にはやり立ち、用意のないイスラエルを国内から抹殺することができると確信した。」（人類のあけぼの下巻 38）

2. アモリ人は征服される

- a. イスラエルの指導者に、全地の所有主から、どのような指示が与えられましたか（申命記 2:31）。
- b. アブラハムの時代にアモリ人に関して、何が預言されていましたか（創世記 15:16）。

「アモリ人は偶像教徒であって、彼らが滅ぼされるのは、当然彼らの大いなる悪のゆえであったが、神は、ご自身が唯一の真の神であり、天地の創造主であることのまちがいのない証拠を彼らに与えるために、四百年の間、彼らに生きることをおゆるしになった。彼らは、イスラエル人がエジプトから導き出されたときに行なわれた神のすべての不思議なみわざを知っていた。十分な証拠が与えられていた。彼らは、もし、その偶像崇拜と放縱な生活から離れようと決心していたなら、真理を知ったことであろう。しかし彼らは光を拒み、偶像を捨てなかった。

主が、その民を二度めにカナン国に導かれたとき、これらの異教国に主の力の証拠がさらに多く与えられた。イスラエル人がアラデ王とカナン人に対して勝利を得たことや、へびにかまれて死にそうになった者が救われた奇跡などによって、神がイスラエルと共におられることを彼らは見た。…エドム、モアブ、アンモンの地を通る旅と宿営を続けた間じゅう、彼らは何の敵対心も示さず、その地の民と持ち物に何の危害も加えなかった。アモリ人の国境に来たとき、イスラエル人はこれまで他の国々と交渉のあったときに用いた同じ規則を守ることを約束して、ただ国の中をまっすぐに通過する許可を求めたのであった。アモリ人の王が、この礼を尽くした願いを退け、無礼にも戦いをいどんで軍勢を召集したとき、彼らの悪の杯は満ちた。神は今、彼らをくつがえすためにその力を発揮されるのであった。」（人類のあけぼの下巻 39）

- c. 戦いの結果は何でしたか（申命記 2:32-35; 民数記 21:24）。

「イスラエル人は、アルノン川を渡り、敵に向かって進んだ。イスラエル軍は彼らと戦って勝利した。その勢いに乗じて、彼らはまもなくアモリ人の国を占領した。神の民の敵を追い払われたのは、主の軍勢の将なる主であった。もし、イスラエル人が彼に信頼していたならば、彼は同じことを 38 年前にしてくださったはずであった。」（同上 39, 40）

3. 神に信頼をおいて

- a. ダビデはカナンの大軍勢について聞いたとき、モーセがとったはずの態度を、どのように適切に描写していますか (詩篇 112:7, 8)。

「それぞれの事情に応じて十分な助けと恵みが、真実なことばをお語りになるかたによって約束されている。彼は助けを求めてくる魂を、その変わることのないみ腕で抱擁される。このかたに任せていれば、われわれは『わたしが恐れるときは、あなたに寄り頼みます』と言って、安心して休むことができる (詩篇 56:3)。彼に信頼するすべての者に、神はみ約束を成就して下さるのである。」(患難から栄光へ下巻 159)

- b. ヘシボンの王、シホンを征服した後、モーセは確信をもって何と行うことができましたか (申命記 2:36)。民はどのように鼓舞されましたか。

「ヘブル人は、前に軍隊が戦いに出たときに敗北し、数千の者が殺されたことを思い出した。そのとき、彼らは神の命令に全く反対して出て行ったのであった。彼らは神が任命された指導者モーセも、神の臨在のしるしである雲の柱も、また契約の箱もないままで出陣したのであった。しかし、今は、モーセが彼らと共にいて、希望と信仰の言葉を語って彼らの心を強めた。神のみ子は雲の柱につつまれて彼らの道を導かれた。そして、きよい箱は軍勢と共にあった。」(人類のあけぼの下巻 42, 43)

- c. この地上で生涯の旅路を進むとき、何について確信することができますか (ピリピ 1:6)。

「終わりの時代の危険のただ中で生きる人々は、ちょうど自分たちの経験の始めに真理が自分たちを救い主に結びつけたように、自分たちの信仰の創始者であり完成者であられるお方が自分たちのために始められた働きを完成して下さることを自覚することができる。神は忠実であられ、そしてこのお方によってわたしたちは神の御子との交わりに召されているのである。男女が自分に与えられた働きをなすことにおいて神と協力するとき、力からさらに大きな力へと前進する。彼らが単純な信仰を働かせ、神がキリストのうちに自分たちを必ず確立して下さると信じるとき、神が昔のイスラエルに言われたように、彼らにも次のように言われる、『あなたはあなたの神、主の聖なる民である。あなたの神、主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民とされた』(申命記 7:6)。」(わたしたちの高い召し 24)

4. バシヤンの王オグが征服される

- a. シホンに対する勝利の後、イスラエル人の次のターゲットは、だれでしたか（申命記 3:1）。バシヤンの地と民を描写しなさい。

「イスラエル軍は、希望と勇気に満ちてどんどん前進した。彼らはなお北方に進み、まもなく、彼らの勇気と神に対する信仰を試みるに足る一つの国に到着した。彼らの前には、強力で人口も多いバシヤン王国があった。「町は六十。……皆、高い石がきがあり、門があり、貫の木のある堅固な町であつた。このほかに石がきのない町は、非常に多かった』（申命記 31:1-11 参照）」（人類のあけぼの下巻 40）

- b. 主はモーセにオグとその軍勢に対して、どのようなメッセージを送られましたか。その戦いの結果は何でしたか（民数記 21:34, 35; 申命記 3:2-7）。

「強力な巨人も、城壁のある町々も、武装した軍勢も、岩のとりでも、主の軍勢の将の前に立つことはできなかった。主は、軍を導かれた。主は、敵を散らされた。主は、イスラエルに勝利をもたらされた。巨人の王とその軍勢は敗北した。イスラエル人は、まもなく、その全土を手中におさめた。

こうして悪と、憎むべき偶像礼拝を行なっていた異邦の民族は、地からぬぐい去られた。」（人類のあけぼの下巻 41）

- c. アモリ人の王、シホンとオグに対する戦いにおいて、主はご自分の民を、どのように助けられましたか（ヨシュア 24:12）。イスラエル人の新しい世代は、どのようにに自分たちの父祖たちの過ちを認めましたか。

「ギレアデとバシヤンを征服したとき、四十年近く前、カデンにおいて、イスラエルが長い間さばくを放浪する運命に定められたときのことを思い起こすものが多くあった。彼らは約束の地に関する斥候の報告が多くの点において正しいものであるのを知った。町々は城壁で囲まれ、非常に大きく、そこには巨人が住んでいて、それと比べるとヘブル人は小人にすぎなかった。しかし、今彼らは、彼らの父たちの重大な過失は、神のみ力に信頼しなかったことであつたのに気づいた。ただこれだけが、彼らをすぐに良い地にはいることを妨げたのであつた。」（同上）

5. わたしたちのための教訓

- a. どのようにイスラエルは、人間の見地からは大いに数において劣勢であった自分たちの敵に対して勝利しましたか（ゼカリヤ 4:6）。

「世界の人口に比べれば、神の民は、常にそうであったように、ごく小さな群れであろう。しかし彼らが、みことばに示されている真理に立つならば、神は彼らの逃れの場となって下さる。彼らは全能の神の広い盾のもとに立つのである。神は常に多数を占めておられる。」（患難から栄光へ下巻 296）

「神は多数ではないであろうか。もしわたしたちが天地を創造された神の側にいるなら、わたしたちは多数の側にいるのではないであろうか。わたしたちには力に優れた天使たちが味方にいるのである。」（節制 258）

- b. この出来事は、わたしたちにどの教訓を教えますか（詩篇 37:1-3, 5）。

「この経験は、われわれに教訓を与える。イスラエルの力ある神は、われわれの神である。われわれは彼に信頼することができる。もし、われわれがそのご要求に従うならば、神は、昔の民のためになされたのと同じ著しい方法で、われわれのために働かれるのである。義務の道をたどっていこうとする者は、だれでも、ときには疑いと不信の念をいだくことがある。その道は、一見、越せそうもない障害物で閉ざされているように思われ、気の弱い者を落胆させることがある。しかし、神はこう言われる、前進せよ。どんな価を払っても、あなたの義務を行ないなさい。どのように恐ろしく見え、心を恐怖で満たすような困難でも、けんそんに、神に信頼して服従の道を前進するときに消え去るのである。」（人類のあけぼの下巻 43）

個人的な復習問題

1. アモリ人に対して戦う準備をする際に、イスラエル人はどのように働く信仰を表しましたか。
2. 神はなぜ今日この世の邪惡な住民たちの命を取らずにおかれるのですか。
3. 神がちょうどカナンの地にイスラエル人を確立させたいと望んでおられたように、今日わたしたちを何に確立させたいと望んでおられますか。これは何を意味しますか。
4. イスラエル人の次世代は、自分の父祖たちの焦点について、何を悟りましたか。
5. わたしたちが自分の道にある生涯にかかわらず、自分の義務をなすとき、何が起こりますか。

ヨルダンでの背教

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。」（コリント第一 10:12）

「この終末時代に青年の心を占領し、その思想を墮落させ、情欲を燃え立たせるのはサタンの特別な働きである。なぜなら彼は、そうすることによって彼らに汚れた行為を行わせ、こうして心の崇高な機能をすべて低下させることができることを知っているからである。」（家庭の教育 474, 475）

参考文献： 人類のあけぼの下巻 65-76

日曜日

6月14日

1. 神の恩寵がわたしたちの保護

- a. モアブの王バラクは、何をしようとしましたか。それはなぜですか（民数記 22:2, 3, 5-7）。
- b. バラムは、なぜイスラエルをのろうことができなかったのですか（民数記 22:38; 23:8）。
- c. イスラエルの霊的な状態について、どの事実がまた彼らを呪うことのできなかったもう一つの理由でしたか（民数記 23:21）。これは今日、どのようにわたしたちを励ましますか。

「彼らが、神に保護されているかぎり、いかなる民族や国家が、サタンの全勢力の援助を受けて彼らに立ち向かっても、彼らに勝つことはできないのである。全世界は、神がその民のためになされた不思議なわざに驚くのである。すなわち、罪の道に進もうと決心した人が、神の力に支配されて、のろいの言葉のかわりに、壮大で、熱情に満ちた詩によって、最も豊かで尊い約束を語るようになったのである。またこのとき、イスラエルに対して表わされた神の恵みは、すべての時代の従順で忠実な神の子らに対する神のみ守りの保証であった。サタンが悪人を扇動して神の民を悪く言い、苦しめ、滅ぼそうとすると、神の民はこのときのできごとを思い起こして、勇気を出し、神に対する信仰を強めるのである。」（人類のあけぼの下巻 58）

2. 祝福と預言的な約束

- a. 神はイスラエルに対して、どの祝福を宣告するようにバラムに靈感をお与えになりましたか。最初の祝福：民数記 23:7-10。第二の祝福：18-24 節。第三の祝福：民数記 24:5-9。
- b. そのとき、バラムはイスラエルとメシヤの来臨について、どの預言を宣べましたか（民数記 24:15-17）。

「神の光はいつも異教の暗黒の中に輝いている。これらの東の博士たちが星空を調べ、星の光る道にかくされている神秘をさぐっていたとき、彼らは創造主の栄光を見た。もっとはっきりした知識を求めて、彼らはヘブライの聖書を調べた。彼ら自身の国には、天来の教師が現われることを予告した預言者の書が秘蔵されていた。バラムは一時は神の預言者だったが、魔術士に属していた。聖霊によって彼はイスラエルの繁栄とメシヤの現われを預言したことがあって、その預言が言い伝えによって世紀から世紀へ伝えられていた。しかし旧約聖書の中には、救い主の来臨がもっとはっきり啓示されていた。」（各時代の希望上巻 48, 49）

- c. バラムはそのとき約束の地に住んでいた国々について、何を預言しましたか（民数記 24:17-23）。

「神は国々にしかるべき恩恵期間をお与えになる。このお方は光と証拠をお送りになり、もし受け入れるならば、それらは彼らを救うが、もしユダヤ人が光を拒んだように拒むならば、憤りと刑罰が彼らの上に降りかかるのである。もし人が恩恵を受けることを拒み、光よりも闇を選ぶならば、彼らは自分の選択の結果を刈り取ることになる。」（SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 4 巻 1143, 1144）

「誤ることのない正確さで無限のお方はなおすべての国家の会計報告をつけておられる。このお方の憐れみが悔い改めへの召しを述べている間は、この会計報告は開かれたままである。しかし、数字が神のお定めになったある金額に達すると、このお方の怒りの務めが始まる。会計報告は閉じられる。神の忍耐が止む。彼らのための憐れみの嘆願はもはやないのである。」

預言者〔エゼキエル〕は、各時代を見下ろし、この時のことが目の前に提示された。この時代の諸国家は前例のない憐れみを受けてきた。最高級の天の祝福が彼らに与えられてきたが、増加する誇り、食欲、偶像礼拝、神の侮辱、そしていやしい忘恩が、彼らに対して記されている。彼らは神に対する自分たちの会計報告を速やかに閉じつつある。」（教会への証 5 巻 208, 209）

3. いわれのない呪いは来ない

- a. イスラエル人がまさに約束の地へ入ろうとしているときに、サタンはどのような誘惑をもってわなをしかけようとしたか（民数記 25:1）。
- b. モアブ人はイスラエルをさらに神から引き離し誘惑するために、何をしましたか（民数記 25:2, 3）。

「バラムの提案によって、モアブの王は、神々をたたえる大祭を催すことにきめた。そして、バラムが、イスラエル人の参加を促すということがひそかに取り決められた。イスラエル人は、彼を神の預言者と見なしていたので、この目的を果たすのはどうさなかった。大ぜいの民が、彼と共に祭りを見物した。彼らは禁じられた場所に足を踏み入れ、サタンのわなに捕えられた。歌と踊りに浮かれ、異邦の女たちの美しさに魅せられて、彼らは主への忠誠心を捨ててしまった。一緒になって歓楽に身をゆだねるにつれて、酒が感覚をくもらせ、自制心を失わせた。情欲がすべてを支配し、みだらな思いで良心を汚した彼らは、勧められるままに、偶像にひびをかがめた。彼らは異教の祭壇に犠牲をささげ、最も堕落した儀式に参加した。

この害毒が、恐ろしい伝染病のように、イスラエルの宿営に広がるには長時間を要しなかった。戦いにおいて敵を征服したはずの者たちが、異教の女の惑わしに負けてしまった。民は、魂を抜かれてしまったようであった。つかさたちや、おもだった人々が先頭に立って罪を犯した。そして多くの人々が罪を犯したため、背信は全国的なものとなった。『イスラエルはこうしてペオルのバアルにつきしたがった』（民数記 25:3）。」（人類のあけぼの下巻 66, 67）

- c. 神は不従順な者たちに、どの刑罰を速やかに下されましたか。それはなぜですか（民数記 25:4, 5, 9）。

「恐ろしい疫病が宿営に発生し、幾万の人々がたちまちのうちに、その犠牲になった。この背信の指導者たちは、さばきびとによって殺されなければならないと、神は、お命じになった。この命令は、直ちに実行された。罪人たちは殺され、その死体は全イスラエルの目の前につるされた。それは、会衆が、指導者たちの受けたきびしい刑罰を見て、彼らの罪に対する神の嫌悪と彼らに対する神の怒りの恐ろしさを痛感するためであった。」（同上 67, 68）

4. 肉欲のわな

- a. 罪深い人性の行いの中に、どの罪がありますか（ガラテヤ 5:19）。わたしたちの時代に、好色、すなわちみだらさは、どれくらい蔓延していますか。

「好色はこの時代の特別な罪である。今ほど悪徳が大胆に醜い頭をもたげたことはなかった。人々は麻痺しているように見える。そして徳とまことの善を愛する人々は、その大胆さや強さ、広がりにはほとんど失望している。蔓延している悪は、不信者や嘲る人々だけにとどまっていない。そうであればよいのだが、そうではないのである。キリストの宗教を公言する多くの男女が有罪である。…すべてのクリスチャンは、自分の情欲を抑制し、原則によって支配されることを学ばなければならない。」（教会への証 2 巻 346, 347）

- b. 今日、天のカナンの境界にいるわたしたちは、ヨルダンでのイスラエルの背教から、どの教訓を学ぶことができますか（コリント第一 10:8, 12）。

「どの時代にも、官能の耽溺という岩に乗り上げて難破した人々が大ぜいいた。時が終わりに近づき、神の民が天のカナンの境界に立つとき、サタンは、昔と同じように、彼らをよい地にはいらせまいとして、いつそう努力する。彼はひとりひとりにわなをしかける。気をつけなければならないのは、無知で無教育な人々ばかりではない。彼は最も高い地位、最も聖なる職務の人々をも誘惑する。もし彼らをいざなってその魂を墮落させることができれば、彼らを通して多くの人々を滅ぼすことができる。そして彼は今も、三千年前に用いたのと同じ手段を用いる。この世の交わり、美貌の魅力、快楽の追求、歓楽、安楽、飲酒などによって、彼は第七条を犯させようとする。」（人類のあけぼの下巻 71）

「官能の耽溺は精神を弱め、魂を墮落させる。動物的な性質の満足によって、道徳的、知的能力はまひして無感覚となる。だから情欲の奴隷が神の律法の神聖な義務を自覚したり、贖罪を感謝したり、あるいは魂の価値を正しく評価することはできない。善、純潔、真実、神への崇敬、聖なることがらへの愛など、人間を天の世界とつなぐこうした聖なる思いと気高い願望のすべてが、情欲の火で焼き尽くされる。」（同上 71, 72）

5. この時代の罪を避ける

- a. どの警告が、今日特に、わたしたちが天のために準備する際に背教からわたしたちを守るよう意図されていますか（コリント第二 6:17; ヤコブ 4:4）。

「ヘブル人が神の律法を犯すようにいざなわれ、民族に神の刑罰をもたらすことになったのは、偶像礼拝者と交わり、彼らの歓楽に加わったためであった。そのように今も、キリストに従う者を不信心な者と交わらせ、その娯楽に加えることによって、サタンは巧みに彼らを罪にさそい出す。『彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない』（コリント第二 6:17）。神は昔のイスラエルに要求なさったと同じように、今のご自分の民にも、風習と習慣と原則において、この世とはっきり分離することを要求なさる。神のことが教えることに忠実に従うなら、この区別は存在し、それはあいまいであることはあり得ない。ヘブル人が異教徒に同化してはならないことを戒めた警告は、現在、不信心な者の精神と風習に、クリスチャンが同調することを禁じている警告と同様に明白なものであった。」（人類のあけぼの下巻 72）

- b. 好色を避けるために、わたしたちは何ができますか（ペテロ第一 1:13; ピリピ 4:8）。

「サタンの策略のとりこにならないようにしようと思う者は、魂の通路をよく見張っていないといけない。思いを不純にするようなものを読んだり、見たり、聞いたりしないようにしなければならない。魂の敵がほめかすような問題に、手当たり次第にとびついたりしないよう、心を引きしめていなければならない。」（患難から栄光へ下巻 217, 218）

「すべての誤った傾向は、キリストの恵みを通して、やる気のない優柔不断なやり方ではなく、目的の堅固さをもって、キリストを型とする高い決意をもって抑制することができる。あなたの愛が、イエスの愛されたものへ向かうようにしなさい。そして正しい衝動のために力を与えないようなものに対しては愛情を抑えなさい。」（彼を知るために 135）

個人的な復習問題

1. 悪を行う者たちがわたしたちに対して悪を企むとき、何が希望と勇気を与えるべきですか。
2. バラムは、キリストに関して異教国家に啓示を与えるために、どのように用いられましたか。
3. イスラエルは、どのようにカナンの国境で神の保護を失いましたか。
4. 今日、なぜわたしたちにとって性的な放縦が、主要な懸念となるべきなのですか。
5. わたしたちはどのようにして自分の思想を清く保つことができますか。

モーセの死

「さて、モーセは、後に語らるべき事からについてあかしをするために、仕える者として、神の家の全体に対して忠実であったが、キリストは御子として、神の家を治めるのに忠実であられたのである。もしわたしたちが、望みの確信と誇とを最後までしっかりと持ち続けるなら、わたしたちは神の家なのである。」（ヘブル 3:5, 6）

「羊を飼う者として、モーセは苦しんでいるものを保護し、病気のものを看病し、忍耐強く迷い出るものを探し出し、手に負えないものを長く忍び、愛する心遣いをもって若い小羊の必要や年老いた弱いものの必要を満たすことを教えられた。」（クシチャン教育の基礎 343）

参考文献： 人類のあけぼの下巻 86-98

日曜日

6月21日

1. モーセが民を励ます

- a. モーセの終わりが近づいたとき、どのような励ましの言葉をもって、まず民に、それからヨシュアに語りましたか（申命記 31:1-8）。

「まもなく彼らの間から取り去られねばならない年老いたモーセを人々が見つめたとき、彼らは、新たに深い感謝にあふれ、彼の父親のようなやさしさ、賢明な勧告、疲れをいとわない労苦を思い起こした。彼らの罪が、神の公正な審判を招いたとき、彼らはモーセのとりなしによって救われたことが幾たびあったことであろう。彼らは心を責められて悲嘆にくれた。自分たちのかたくなな思いがモーセに罪を犯させ、そのために彼が死ななければならなくなったことを思い起こして、彼らの心は痛んだ。

モーセの命と彼の務めが、なおも続いて、彼から人々が譴責されることよりも、この愛する指導者が取り去られることのほうが、イスラエルにとっては、さらに大きな譴責であった。彼らが、モーセの生涯を苦しいものにしたように、将来の指導者の生涯は苦しいものにすまいという自覚を、彼らに持たせることを神は望まれた。神は、祝福を与えて、民に語られた。そして、それが感謝して受け入れられないと、その祝福を取り去って、彼らが自分たちの罪をさと、心から神に立ち帰るように導かれる。」（人類のあけぼの下巻 87, 88）

2. 律法の書を読む

- a. どれくらい頻繁に民は、律法が読み上げられるのを聞くことが要求されましたか。また民のうちどの種類の人々がそうしなければなりませんでしたか。それはなぜですか（申命記 31:9-13）。

「〔神は〕親が自分の子供たちを訓練し、たゆまない勤勉さをもって彼らをご自分の律法の要求に関して教育するように、また彼らを神の知識と恐れのうちに指導するように要求された。神がユダヤ人に非常な厳粛さをもって課されたこれらのご命令は、まったく同じ重さをもってクリスチャンの親に課されている。」（教会への証 3 巻 294）

- b. イスラエルのための神のご計画は何でしたか。この約束が成就するための条件は何でしたか（申命記 28:12-14）。

「イスラエルに与えられたこれらの約束は、今日神の民にもまた与えられている。」（教会への証 6 巻 351）

- c. 神の特別な民としての自分たちの召しを絶えず思い起こさせるものとして、イスラエル人に何が与えられましたか（民数記 15:38, 39）。そうであれば、わたしたちが身につけるすべての衣服は、今日わたしたちに何について思い起こさせるべきですか。

「イスラエルの子らはエジプトから導き出された後、彼らを周囲の国家から区別するために、また彼らが神の特別な民であることを意味するために、自分たちの衣の縁に単純な青いふさをつけるように命じられた。神の民は今、自分の衣に特別なしるしをつけるようには要求されていない。しかし、新約ではしばしば昔のイスラエルが模範として言及されている。もし神が昔のご自分の民に衣服に関してそのような明白な指示をお与えになったとすれば、この時代の神の民の衣服はこのお方の注意をひかないであろうか。彼らの衣服には世の者たちの衣服と区別するものがあるべきではないだろうか。神の民は、神の特別な宝なのであり、自分たちの衣服においてさえ、神に栄光を帰することを求めるべきではないだろうか。そして彼らは衣服の点でも模範となり、その単純な様式によって、世俗的で娯楽を愛する公言者の誇り、虚無、ぜいたくを譴責すべきではないだろうか。神はこれをご自分の民に要求なさる。誇りはこのお方のみ言葉の中で譴責されている。」（ビュー・アンド・ヘルド 1900 年 1 月 23 日）

3. 新しい歌を記す

- a. 神のご品性のどの局面が、民の恩恵のためにモーセが記した歌の中に持ち出されていますか（申命記 32:3, 4, 6）。
- b. この歌の中で、神の民に対する神の保護がどのように表されていますか（申命記 32:9-12）。

「神は、イスラエルの民が、神のみ名の栄えとなり、周囲の国民の祝福となるように、彼らにあらゆる便宜をはかり、あらゆる特権をお与えになった。もし彼らが、従順の道を歩むなら、『主は誉と良き名と栄えとをあなたに与えて、主の造られたすべての国民にまさるものとされる。』（申命記 26:19）。」（教育 33）

「神は彼らを麗しい国、すなわち、神が摂理のうちに敵からの避難所として、彼らのために準備された国へ彼らを導くために、奴隷状態から彼らを救い出されたのである。神は、彼らをご自分のところに連れてきて、彼らを永遠の腕に抱こうとされた。そして彼らは、神の恵みとあわれみにこたえて、神のみ名を高め、神のみ名を地上で栄えあるものにすべきであった。」（国と指導者上巻「主のぶどう園」2）

- c. どの意味において、この歌は民を助けとなるよう意図されていましたか（申命記 31:19-22）。このことから、わたしたちは何を学ぶことができますか。

「これらの真理をすべての人の心にさらに深く刻むために、偉大な指導者〔モーセ〕はこれを聖句の形で表現した。この歌は歴史的であるばかりでなく、預言的でもあった。それは、過去において、神がご自分の民にとられた驚くべき態度を回顧すると共に、未来の大いなるできごと、キリストが力と栄光のうちに二度めにおいでになるときの忠実な者の最終的な勝利を予表していた。民はこの詩にうたわれた歴史を暗唱し、それを子や孫にまで教えるように命じられた。それは礼拝に集まった会衆によってうたわれ、人々が日常の仕事にとりかかるときにくり返されることになった。感化を受けやすい子供の頭にこの言葉を刻み込んで、決して忘れないようにすることが親の勤めであった。」（人類のあけぼの下巻 84, 85）

4. あらかじめ述べられたキリストの来臨

- a. モーセは、どのようにイエス・キリストの初臨について述べましたか（申命記 18:15, 18）。
- b. イエスはこの預言に関連して、どの譴責をユダヤ人に向けられましたか（ヨハネ 5:45-47）。

「人びとの中には、旧約聖書の真理は、信じて教えるけれども、新約の方は拒否するという人がある。しかし、彼らはキリストの教えを拒否することによって、家長や預言者たちの語ったことをも信じないことを示している。『もし、あなたがたがモーセを信じたならば、わたしをも信じたであろう。モーセは、わたしについて書いたのである』とキリストはおおせになった（ヨハネ 5:46）。従って、彼らが、どんなに旧約聖書を説いても力がないのである。

また、わたしたちは福音を信じて、福音を説いていると主張しながら、同様のあやまちにおちいつている人びとが多い。彼らは、キリストが『この聖書は、わたしについてあかしをするものである』といわれた旧約聖書を見捨てている（ヨハネ 5:39）。旧約を拒むことは、事実上、新約を拒むことである。この二つは切り離すことのできない 統一体である。だれでも福音を説かないで、神の律法を正しく語ることはできない。また、律法をはなれた福音を説くこともできない。律法は、福音の具体的表現であって、福音は、律法の解説である。律法は根であって、福音は、律法のかんばしい花であり、その結ぶ実である。」（キリストの実物教訓 106）

- c. どの意味において、モーセはキリストの型でしたか（ヘブル 3:5, 6）。

「モーセはキリストの型であった。彼は、自らイスラエルに告げていた『あなたの神、主はあなたのうちから、あなたの同胞のうちから、わたしのようなひとりの預言者をあなたのために起されるであろう。あなたがたは彼に聞き従わなければならない』（申命記 18:15）。イスラエルの群衆を地上のカナンに導く準備をさせるために、神は、モーセを苦難と困窮の学校で訓練するのをよしとされた。天のカナンに向かう神のイスラエルには、天来の指導者としての務めを果たすのに、人間の教えを必要としない指揮官がおられる。だが、その彼も苦難を通して全うされ、こうして、『主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである』（2:18）。われらの贖い主は、一つとして人間的弱さや欠陥を表わされなかったが、われわれが約束の地にはいることができるために、死んで下さった。」（人類のあけぼの下巻 97, 98）

5. モーセの死と復活

- a. モーセが自分の働きを終えたとき、どのご命令と保証を主から受けましたか（申命記 32:49, 50, 52）。

「モーセは、ただひとりで神の民と運命を共にするために、エジプトの宮廷の榮譽と将来の王位を捨てたときから始まった、彼の人生の変転と辛苦をふり返った。

.....

彼は重荷を負ってきたことを悔いなかった。彼は、自分の任務と仕事は、神ご自身がお定めになったものであることを知っていた。」（人類のあけぼの下巻 90）

- b. 神はどのようにモーセを命に戻されましたか。そしてモーセとエリヤは変貌の山で、どの種類の聖徒たちを象徴していましたか（ユダ 9; マタイ 17:1-5）。

「変貌（へんぼう）の山におけるモーセは、罪と死に対するキリストの勝利の証人であった。彼は、義人のよみがえりの時に墓から出てくる人々を代表していた。エリヤは、死を見ないで天へ移された人だったので、キリストの再臨の時に地上に生存していて、『終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられ、……この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着る』人々を代表していた（コリント第一 15:51-53）」（各時代の希望中巻 193）

個人的な復習問題

1. モーセが死のうとしていたとき、今や民は彼をどのように見ましたか。それはなぜですか。
2. 王の子として、また神の特別で特殊な宝としてのわたしたちの召しは、どのようにわたしたちの着方や自分の子供たちの着せ方に影響を及ぼすべきですか。
3. 親が自分の子供たちの思いに深く真理を印象づけることのできる一つの方法は何ですか。サタンは、どのように巧妙にこの同じ道具を反対方向に用いようとしていますか。
4. もしわたしたちが旧約聖書を脇へ置くなら、どのようにキリストを拒んでいるのですか。
5. モーセが苦勞と困難の人生と引き換えに後に残した富や名声を考えたときに、なぜ彼は後悔しなかったのですか。

第一安息日献金



4月4日

ヨハンプルグの礼拝堂と
本部のために
(4 ページ参照)

5月2日

インドのタミル・ナドゥ、メイイ
ラドゥライの礼拝堂のために
(25 ページ参照)



6月6日

世界のミッションのために
(51 ページ参照)

